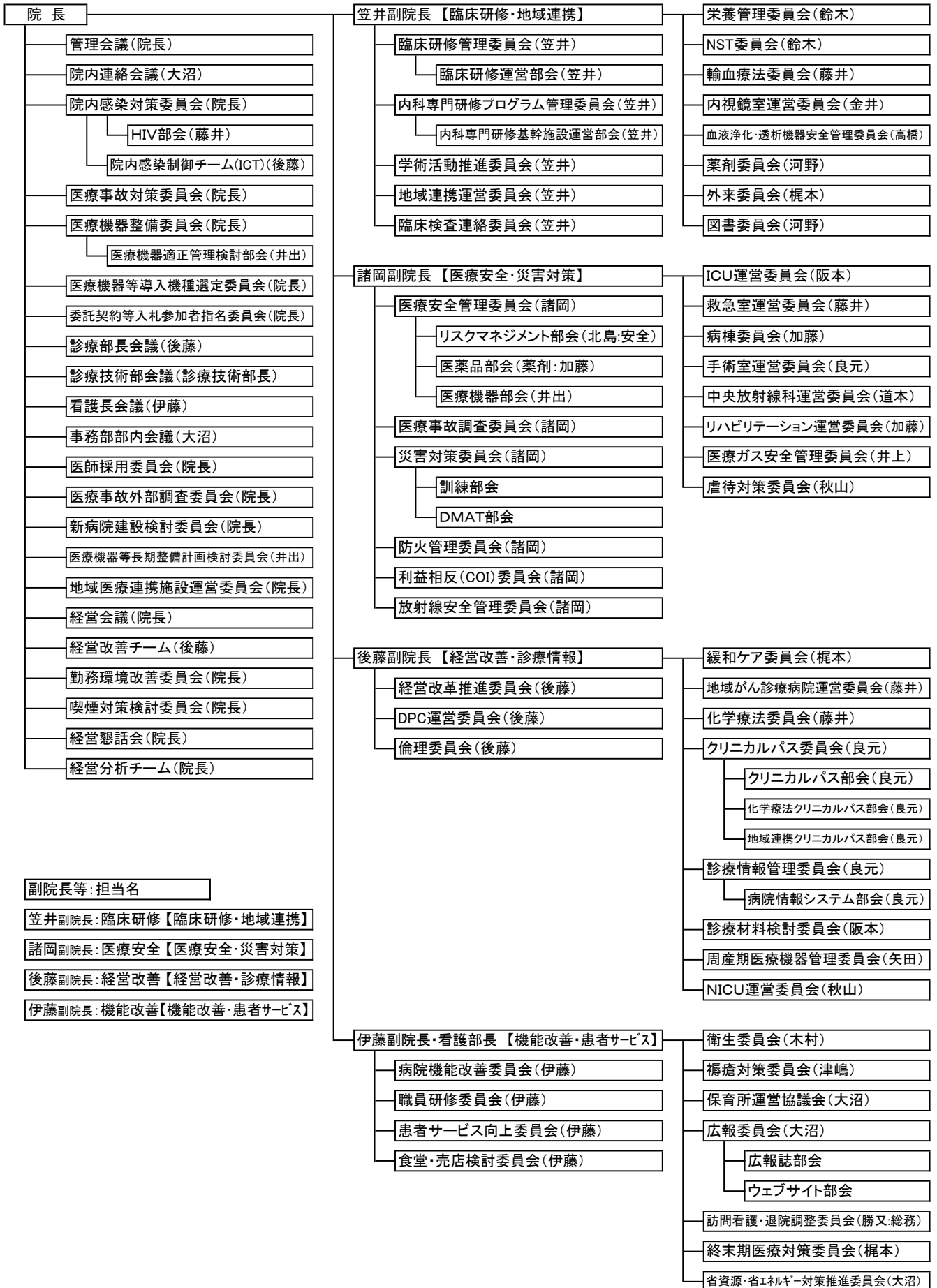


17 院内各種委員会等の活動実績

各種委員会等一覧（掲載ページ）

ページ	委員会名	ページ	委員会名
139	衛生委員会	181	医療事故調査委員会
141	D P C 運営委員会	182	医療事故対策委員会
142	職員研修委員会	184	血液浄化・透析機器安全管理委員会
143	図書委員会	185	周産期医療機器管理委員会
144	診療情報管理委員会	186	地域連携運営委員会
145	医療機器整備委員会	188	患者サービス向上委員会
147	手術室運営委員会	189	学術活動推進委員会
148	薬剤委員会	190	病棟委員会
150	医療ガス安全管理委員会	191	勤務環境改善委員会
152	臨床研修管理委員会	193	外来委員会
153	院内感染対策委員会	195	放射線安全管理委員会
154	倫理委員会	197	災害対策委員会
155	訪問看護・退院調整委員会	198	防火管理委員会
156	栄養管理委員会	199	虐待対策委員会
158	中央放射線科運営委員会	200	臨床研修センター
159	臨床検査連絡委員会	201	喫煙対策委員会
160	救急室運営委員会	203	富士市透析防災ネットワーク
161	内視鏡室運営委員会	204	利益相反（COI）委員会
163	褥瘡対策委員会	205	N I C U 運営委員会
165	クリニカルパス委員会	206	リハビリテーション運営委員会
167	病院機能改善委員会	207	経営改善チーム
167	N S T 委員会	208	医療機器等導入機種選定委員会
170	輸血療法委員会	209	保育所運営協議会
172	医療安全管理委員会		省資源・省エネルギー対策推進委員会
173	緩和ケア委員会		終末期医療対策委員会
174	広報委員会		地域がん診療病院運営委員会
175	食堂・売店検討委員会		内科専門研修プログラム管理委員会
176	経営改革推進委員会		医療機器等長期整備計画検討委員会
177	化学療法委員会		新病院建設検討委員会
178	診療材料検討委員会		
179	I C U 運営委員会		



■衛生委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	木村 哲夫（呼吸器内科）	副委員長	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）
副委員長	千葉 博胤（小児科）	副委員長	入村 雄也（外科）
委員	飛澤 香奈（薬剤科）	委員	大野 成美（臨床検査科）
委員	井出 敦之（中央放射線科）	委員	小田 純市（リハビリテーション科）
委員	金指 麻衣（栄養科）	委員	河合 良和（ICU）
委員	本間 竜也（7A病棟）	委員	櫻井 直美（6B病棟）
委員	角入 あゆ美（病院経営課）	委員	小山 修一（病院総務課）
委員	露木 秀俊（医事課）	産業医	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）
事務局	中村 崇人（病院総務課）		

概要

労働安全衛生法第18条に基づき、職員の健康障害の防止と健康の保持増進、及び公務災害の原因、再発防止対策や安全に職務を遂行できる環境を整えることを目的として、対策の協議や審議を行う。

2 開催回数

1回／月

3 令和元年度の取組実績

(1) 定期健康診断の実施

（一般定期健診、特定業務従事者健診、電離放射線業務従事者の健康診断）
（ストレスチェックの実施）

(2) ワクチン接種

（インフルエンザワクチン接種、HB ワクチン接種、HBV 及び HCV 検診）
（MR ワクチン接種）

(3) 安全衛生対策の計画及び実施（安全衛生事業計画など）

(4) 病棟職場巡視

4 来年度の課題

- (1) 公務災害・労働災害件数を減らす
- (2) 職場巡視を行い職員の安全・安心を守る
- (3) 病院敷地内含む禁煙対策の周知

（文責 木村 哲夫）

■ D P C 運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	後藤 博一 (副院長兼泌尿器科部長)	副委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	阪本 宏志 (循環器内科)	委員	野田 靖人 (脳神経外科)
委員	鈴木 俊雅 (外科)	委員	三澤 延司 (薬剤科)
委員	渡邊 広明 (臨床検査科)	委員	小林 由美 (6 B 病棟)
委員	玉舟 正弥 (医事課)	委員	金子 弘之 (病院経営課)
委員	島田 英介 (医事課)	事務局	寺田 和子 (医事課)
事務局	高田 恭平 (医事課)		

2 開催回数

12 回 (毎月 1 回、第 4 木曜日)

3 令和元年度の取組実績

DPC 運営委員会では年間を通じて診療報酬請求査定率の推移、査定改善策の検討、再審査請求の報告、各外部保険団体からの審査報告、DPC 症例からの基本統計、臨床評価指標、分析結果の報告、DPC や診療報酬に関連したトピックスの報告を行った。

今年度は DPC 分析統計を内科詳細化し、管理会議への報告資料として開始、各診療科への査定情報の配布、令和元年度消費税増税に伴う診療報酬改定による影響検証、令和 2 年度診療報酬改定対策の検討、院内全体向け診療報酬研修会を 9 月と 3 月の 2 回開催した。診療報酬研修会では 9 月は 157 名、3 月は感染対策のため参加者を限定し 22 名の参加があった。

4 来年度の課題

査定改善を要する診療科の委員会への参加、査定率管理、診療報酬研修会のビデオ視聴等の e ラーニングについて検討を行う。

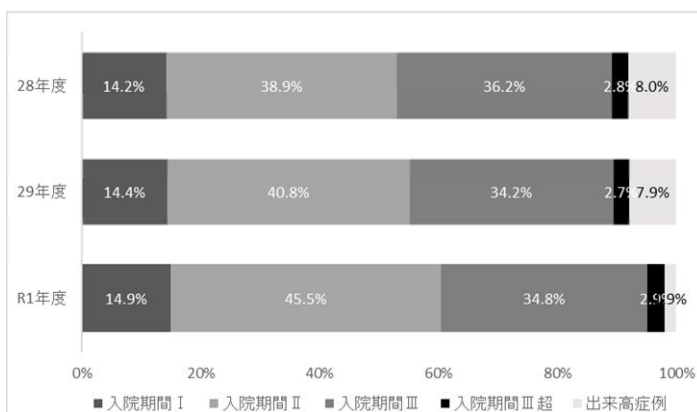
【委員会資料】

診療報酬査定：社保・国保・後期高齢科別返戻・査定状況、月別返戻・査定状況、診療科別返戻・査定状況、診療区分別返戻・査定状況、査定改善策

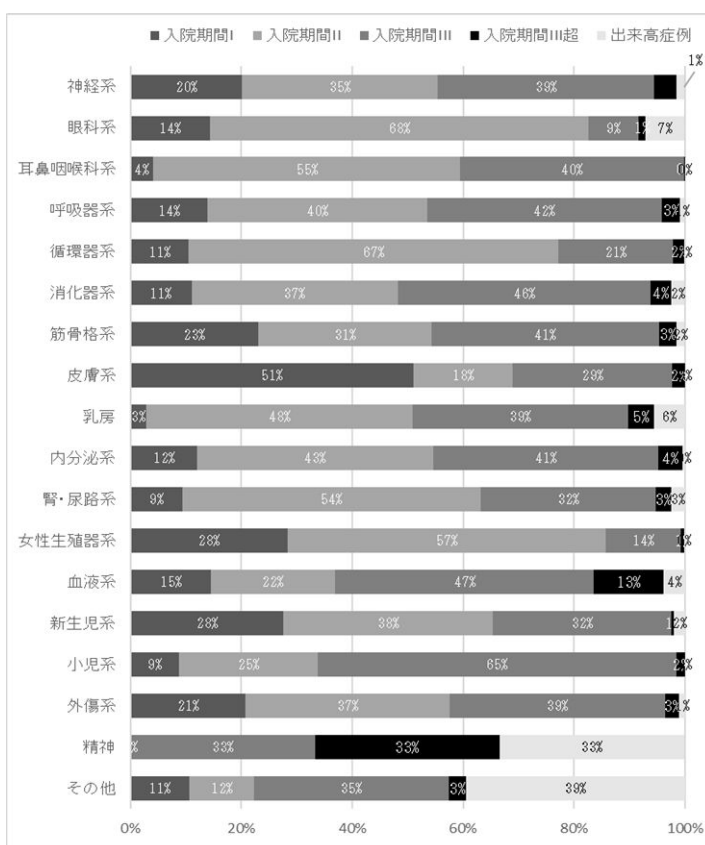
D P C 統 計：出来高比稼働額統計、DPC 症例 (平均在院日数、期間比率、詳細不明コード率等)、臨床評価指標 (死亡率、医療関連感染発生リスク、再入院率、緊急手術率等)、DPC 件数、増収、減収 TOP20

D P C 分 析：県下 3 群病院機能評価係数 II 分析

DPC 入院期間比率



DPC MDC2 別入院期間比率



DPC 詳細不明コード発生率推移



【解説】

DPC は病名と治療行為の組み合わせにより入院期間に区切りが設定されており、入院期間は、全国のDPC 病院から集められた情報により厚労省が設定している。期間の設定は**入院期間Ⅱ**が全国平均の入院期間である。

DPC ではこの入院期間Ⅱまでの割合が高いほど、効率的に治療が行われていると判断され、DPC を構成する**効率性係数**という部分に影響する。またDPC で設定された詳細不明コードの割合も効率性係数同様、**保健医療係数**という部分に影響する。こちらは厚労省に出すデータの精度を評価したものになる。

これらの係数が大きい病院のほうが高度な医療機能を有するとみなされ、1日あたりの診療報酬単価を高く請求することができる。

(文責 笠井 健司)

■職員研修委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	高橋 康人 (腎臓内科)
副委員長	大石 悦子 (副看護部長)	委員	野田 文子 (臨床検査科)
委員	岡田 和教 (中央放射線科)	委員	飛澤 香奈 (薬剤科)
委員	木下 和佳 (手術室)	委員	鈴木 かほり (4 B病棟)
委員	佐野 幸代 (5 B病棟)	委員	遠藤 雅和 (6 B病棟)
委員	岩間 由加里 (7 B病棟)	委員	鈴木 道代 (3 B病棟)
委員	小池 博也 (病院経営課)	委員	川口 愛美 (医事課)
事務局	井出 大介 (病院総務課)		

2 開催回数

11回 (内5回は講演会) 不定期

3 令和元年度の取組実績

職員研修委員会は、職員の能力及び勤務能率の向上を図ることを目的として、昭和60年7月1日に設置された。

主とする活動内容は院内職員向けの研修企画及び各委員会による研修活動の把握。

令和元年度も職員一人ひとりが認知症を正しく理解し、知識を習得することが通常業務においても有益であると考え、昨年度に引き続き認知症サポーター養成講座を開催し、職員94名(昨年度75名)の申し込みがあった。

また、昨年度と同様に職員より開催希望のあったハラスメント研修を実施予定であったが、令和元年度は延期となった。

4 来年度の課題

職員の更なる能力向上のためのテーマを決め、研修会を計画する。特に延期となったハラスメント研修に関しては、内容等再度検討し、よりよい研修を開催する予定である。

(文責 伊藤 すみ子)

■図書委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	河野 優（神経内科部長）	副委員長	藤谷 暢子（眼科）
委員	重田 泰史（耳鼻咽喉科）	委員	遠藤 泰彦（病理診断科）
委員	高野 裕樹（外科）	委員	北村 博頭（外科）
委員	生田 匠（整形外科）	委員	玉川 明香（整形外科）
委員	大石 悦子（副看護部長）	委員	木村 佳弘（薬剤科）
委員	杉山 満利（病院総務課）	委員	塩澤 忠生（医事課）
事務局	齋藤 智恵美（医事課）	事務局	石田 佳奈（医事課）

2 開催回数

2回（9月、2月）

3 令和元年度の取組実績

- ・年間で160冊の医学書籍の購入を行った。
- ・雑誌127誌の定期購読契約更新（和雑誌105誌・洋雑誌22誌）を行った。
- ・オンライン電子図書サービスの「メディカルオンライン」「J dreamⅢ」「医中誌」「今日の診療」「電子ジャーナル」「Clinical Key」の更新を行った。
- ・電子書籍の利用を促進するため、オンライン電子書籍サービスの案内を全医師に対して行った。
- ・蔵書の電子管理を進めると同時に、古い書籍の除籍計画、雑誌の保存年数見直し等、適正管理を行った。

4 来年度の課題

- ・医学雑誌の電子ジャーナル、電子書籍の導入をすすめるとともに、定期購読誌の見直しを行う。
- ・オンライン電子図書サービスの利用率を高めるため、積極的な利用案内を行う。
- ・図書室の利便性や機能性の向上、方向性について検討を行う。

（文責 河野 優）

■診療情報管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久 (手術管理科・外科)	委員	藤谷 暢子 (眼科)
委員	津島 友央 (皮膚科)	委員	安藤 精貴 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	鈴木 英訓 (泌尿器科)	委員	三橋 真 (整形外科)
委員	村上 暉 (産婦人科)	委員	勝又 千壽子 (副看護部長)
委員	齋藤 正美 (4 B病棟)	委員	清水 則雄 (中央放射線科)
委員	長峰 誠一郎 (臨床検査科)	委員	木元 慎一郎 (薬剤科)
委員	小田 純市 (リハビリテーション科)	委員	田中 ゆりの (栄養科)
委員	塩澤 忠生 (医事課)	委員	島田 英介 (医事課)
事務局	露木 秀俊 (医事課)	事務局	齋藤 智恵美 (医事課)

2 開催回数

3回 (6月、10月、1月)

3 令和元年度の取組実績

診療情報管理委員会では、以下の内容を検討・実施した。

- ・今年度より、病院情報システム運営委員会と統合され、システム関連 (不具合改善・バイタル自動取込・カルテ院外参照等) についても検討した。
- ・電子カルテレベルアップを行った。大きな変更点として、カルバペネム系抗菌薬等の使用届出が、紙管理から電子カルテ上で管理できるようになった。
- ・代行承認確認率をあげるため、新規医師に対しては、電子カルテ ID を作成する際、標準登録を行い、未読・未承認が確認できるようにした。
- ・死亡診断書は手書きによる運用だったが、電子作成について検討した。
- ・病院機能評価でB評価を受けた部分 (各診療科の臨床指標・診療記録の質的点検) について今後検討を行っていくことを報告した。
- ・臨床指標の定期的計測、サマリー作成率、カルテ廃棄、中央病歴管理室の新規業務としてNCD登録・DMネットワーク症例登録開始の報告を行った。

4 来年度の課題

代行承認確認率を改善するための方法を検討していく。

病院機能評価の受審結果を受け、各診療科の臨床指標や診療記録の質的点検について検討していく。

(文責 良元 和久)

■医療機器整備委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸 (院長)	副委員長	大沼 幹雄 (事務部長)
委員	後藤 博一 (総括部長)	委員	井出 宣孝 (医療機器管理室)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	渡辺 利英 (病院総務課)
事務局	堤 恭子 (病院総務課)		

医療機器適正管理検討部会

役職	氏名	役職	氏名
部会長	井出 宣孝 (医療機器管理室)	部員	10名

2 開催回数

- (1) 医療機器整備委員会 2回 (延べ4日)
- (2) 医療機器適正管理検討部会 1回

3 令和元年度の取組実績

- (1) 令和2年度医療機器等購入要望のある所属に対して、10月に3千万以上の高額備品、2月にそれ以外の備品についてヒアリングを行った。
- (2) 医療機器適正管理検討部会
ICU生体情報モニター式の購入について検討した。

4 来年度の課題

- ・令和2年度も引き続き医療機器等購入要望のヒアリングを行う。
- ・医療機器の効率的な運用について検討する。

(文責 柏木 秀幸)

■手術室運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久 (手術管理科・外科)	副委員長	井上 恒佳 (麻酔科)
副委員長	森本 泰江 (手術室)	委員	山田 啓太 (形成外科)
委員	高橋 康人 (腎臓内科)	委員	田口 真吾 (心臓血管外科)
委員	北村 博頭 (外科)	委員	加藤 努 (整形外科)
委員	後藤 博一 (泌尿器科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	渡辺 勝 (眼科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	長谷川 潤 (循環器内科)	委員	諸岡 暁 (脳神経外科)
委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委員	遠藤 一弘 (中央放射線科)
委員	諏訪部 新 (臨床工学科)	委員	渡辺 広明 (臨床検査科)
委員	望月 久子 (手術室)	委員	伊藤 輝美 (手術室)
委員	杉本 祐介 (手術室)	委員	原田 誠 (病院総務課)

2 開催回数

12回 (毎月1回、第4月曜日)

3 令和元年度の取組実績

- 1) 令和元年度に手術室を利用した手術は、総手術件数 3,657 件 (平成 30 年度 3,938 件, 平成 29 年度 4,010 件)、緊急手術 465 件 (560 件, 491 件)、定期手術 3,192 件 (3,378 件, 3,519 件)、全身麻酔手術 1,661 件 (1,871 件, 1,800 件)、全身麻酔以外 1,996 件 (2,067 件, 2,210 件) であった。手術件数の減少数は 281 件 (7.1%) であったが、主に全身麻酔の手術の減少によるものであった。
- 2) 科別の手術時間の延長は平均 44.0% と平成 30 年度に比べ 1.4% 増加した。
- 3) 手術枠を有効に使用するために各科にアンケートを施行し、定期的に見直しを検討した。

4 来年度の課題

- 1) 手術件数を増やす。
- 2) 手術室の老朽化した診療機器の更新を行う。
- 3) 定期的に手術枠の見直しを行い、手術室の有効使用と定期手術の午後 5 時までの終了に努める。
- 4) より安全かつ効率的に手術が行われるように努める。

(文責 良元 和久)

令和元年度 手術室稼働統計

【緊急・定期別件数】

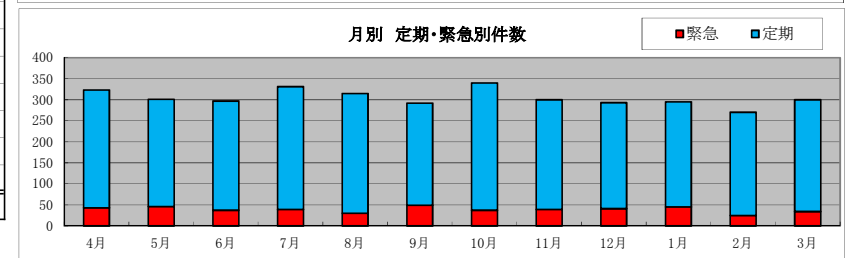
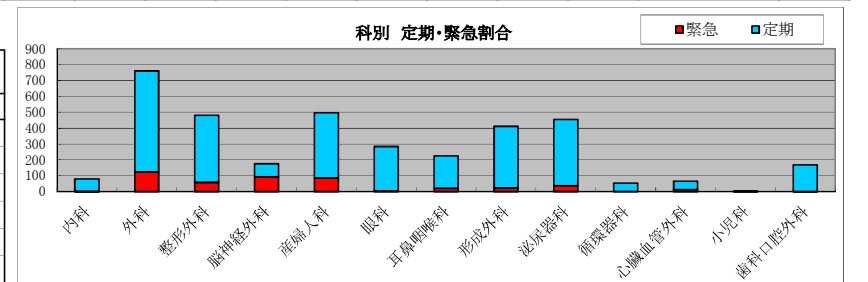
診療科	総計	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計		
		緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	
内科	80		8		9		5		6		5		4		2		10		7		8		9		3		2	78
外科	760	16	60	11	59	15	55	9	58	7	58	12	41	13	59	13	58	11	58	6	47	5	45	6	38	124	636	
整形外科	481	3	44	4	28	3	26	5	37	4	34	7	28	9	45	4	38	6	44	8	31	4	33	2	34	59	422	
脳神経外科	176	8	5	9	8	5	8	9	9	5	3	13	13	5	9	7	2	3	10	14	8	3	3	12	5	93	83	
産婦人科	496	5	31	7	33	6	36	5	39	9	41	8	29	4	40	7	30	13	29	8	31	7	33	7	38	86	410	
眼科	284		29		20		17		25		22		1		22		26		2		23		1		22	5	279	
耳鼻咽喉科	225	2	18	5	13		14		21	2	23	3	12	2	13	1	20	1	14	2	17	2	16	1	23	21	204	
形成外科	411	1	27	4	22	2	34	6	32	1	38		36		44	3	25	1	24	2	35	2	37	1	34	23	388	
泌尿器科	455	4	34	5	40	4	40	5	35	2	43	4	33	3	39		29	2	32	5	27	1	26	3	39	38	417	
循環器科	53		2		3		4		7		3		7		2		7		2		5		5		6		53	
心臓血管外科	65	4	3	1	4	2	4		7		5	1	5	1	6	2	4	1	4		5		3	1	2	13	52	
小児科	2																										2	
歯科口腔外科	169		19		16		17		16		10		13		16		12		9		13		11		16	1	168	
総計	3657	43	280	46	255	37	260	39	292	30	285	49	243	37	303	39	261	41	252	45	250	25	245	34	266	465	3192	

【麻酔区分別件数】

診療科	総計	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計		
		全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	
内科	80		8		9		5		6		5		4		4		11		6		8		8		3		3	77
外科	760	60	16	46	24	46	24	41	26	43	22	34	19	46	26	41	30	49	20	37	16	34	16	34	10	511	249	
整形外科	481	18	29	14	18	13	16	20	22	17	21	8	27	24	30	16	26	12	38	7	32	15	22	11	25	175	306	
脳神経外科	176	5	8	3	14	8	5	6	12		8	14	12	5	9	2	7	5	8	10	12	1	5	11	6	70	106	
産婦人科	496	26	10	22	18	26	16	30	14	29	21	20	17	23	21	22	15	21	21	23	16	19	21	24	21	285	211	
眼科	284		29		20		1		2		23		1		22		26		2		1		1		22	6	278	
耳鼻咽喉科	225	18	2	16	2	13	1	19	2	24	1	14	1	14	1	17	4	15		18	1	17	1	23	1	208	17	
形成外科	411	1	27	3	23	8	28	13	25	16	23	7	29	10	34	7	21	6	19	6	31	7	32	8	27	92	319	
泌尿器科	455	7	31	7	38	12	32	8	32	9	36	5	32	2	40	4	25	8	26	5	27	8	19	11	31	86	369	
循環器科	53		2		3		4		7		3		7		2		7		2		5		5		6		53	
心臓血管外科	65	7		5		5	1	7		5		6		7		6		4		5		3		3		63	2	
小児科	2																										2	
歯科口腔外科	169		19		15		1	15	1	10		10	3	16		12		10		11		2	10	1	16	160	9	
総計	3657	161	162	131	170	148	149	161	170	153	162	119	173	147	193	128	172	131	162	123	172	118	152	141	159	1661	1996	

【手術室稼働件数・年別推移】

診療科	申込区分別						麻酔区分別						合計				
	定期			緊急			全麻			全麻以外			合計				
	29年度	30年度	R1年度	29年度	30年度	R1年度	29年度	30年度	R1年度	29年度	30年度	R1年度	29年度	30年度	R1年度		
内科	100	91	78			4	2			1	3	100	94	77	100	95	80
外科	663	671	636	141	179	124	548	613	511	256	237	249	804	850	760		
整形外科	495	456	422	52	67	59	148	172	175	399	351	306	547	523	481		
脳神経外科	93	110	83	88	84	93	97	95	70	84	99	106	181	194	176		
産婦人科	489	415	410	106	118	86	343	309	285	252	224	211	595	533	496		
眼科	281	280	279	2	5	5	7	11	6	276	274	278	283	285	284		
耳鼻咽喉科	258	238	204	22	18	21	262	242	208	18	14	17	280	256	225		
形成外科	469	385	388	37	37	23	110	103	92	396	319	319	506	422	411		
泌尿器科	379	433	417	18	32	38	77	82	86	320	383	369	397	465	455		
循環器科	74	52	53	1						75	52	53	75	52	53		
心臓血管外科	59	49	52	19	10	13	65	52	63	13	7	2	78	59	65		
小児科	1	7	2				1	7	2				1	7	2		
歯科口腔外科	158	191	168	5	6	1	142	184	160	21	13	9	163	197	169		
総計	3519	3378	3192	491	560	465	1800	1871	1661	2210	2067	1996	4010	3938	3657		



■薬剤委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	河野 優 (神経内科)	副委員長	加藤 寛史 (薬剤科)
委員	笠井 健司 (副院長兼内科部長)	委員	後藤 博一 (副院長兼総括部長兼泌尿器科部長)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	山田 啓太 (形成外科)
委員	安藤 精貴 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	野田 靖人 (脳神経外科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	津嶋 友央 (皮膚科)
委員	金井 友哉 (消化器内科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	外岡 雄二 (精神神経科)	委員	藤田 暢子 (眼科)
委員	阪本 宏志 (循環器内科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	成瀬 瞳 (心臓血管外科)	委員	道本 顕吉 (放射線科)
委員	池本 智 (小児科)	委員	井上 恒佳 (麻酔科)
委員	良元 和久 (外科)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員	勝又 千尋子 (副看護部長)	委員	金子 弘之 (病院経営課)
委員	塩沢 忠生 (医事課)	事務局	渡邊 浩臣 (薬剤科)

2 開催回数

3回：(6月、10月、2月)

3 令和元年度の取組実績

新規採用医薬品、院外処方許可医薬品、後発医薬品、削除医薬品の選定、その他医薬品に関する審議を行った。

- ①新規採用医薬品 : 49 製剤 61 規格
- ②院外処方許可医薬品 : 20 製剤 28 規格
- ③後発医薬品 : 72 製剤 93 規格
- ④削除医薬品 : 56 製剤 59 規格
- ⑤後発医薬品置き換え率 : 88.5%

4 来年度の課題

- ・採用医薬品の選定：より良い医療が提供できる適切な医薬品の採用に努める。また、適正在庫に努め、削除医薬品の選定を行う。
- ・後発医薬品使用体制加算3：施設基準である「カットオフ値」50%以上、後発医薬品置換え率85%以上を維持する。

(文責 河野 優)

■医療ガス安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	井上 恒佳（麻酔科）	副委員長	大沼 幹雄（事務部長）
委員	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）	委員	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	石川 隆之（診療技術部長）	委員	高木 省一（中央放射線）
委員	加藤 寛史（薬剤科）	委員	池谷 幸一（臨床工学科）
委員	渡辺 利英（病院総務課）	事務局	原田 誠（病院総務課）
事務局	岩間 雄一郎（病院総務課）	参考人	増田 成鋭（富士アセチレン工業）
参考人	宇佐美勝司（富士アセチレン工業）	参考人	辻村 賢司（富士アセチレン工業）

2 開催回数

1回：令和元年11月11日（月）

3 令和元年度の取組実績

医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とし、以下の内容を実施した。

1) 医療用ガス点検結果の報告

【目的】院内各所に設置している医療ガスアウトレット・院内に医療ガスを供給するマニホールドの点検結果を共有し、医療ガス漏洩を防ぐために修繕の必要な箇所を把握することを目的とする。

【内容】1. 点検報告結果の説明

2. 医療ガスの噴き出し量が低下している5A、5B病棟について令和元年度に修繕を実施することを確認。

2) 「医療ガス安全使用に関する講習会」の開催

【目的】医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とする。

日時	対象	参加人数	研修内容
H31. 4. 25	新規採用看護師	35名	酸素ポンプの取扱い他(実習・ビデオ)
R1. 10. 10	看護補助者	35名	酸素ポンプの取扱い他(実習・ビデオ)
R1. 10. 18	看護補助者	29名	酸素ポンプの取扱い他(実習・ビデオ)
R1. 10. 31	看護補助者	33名	酸素ポンプの取扱い他(実習・ビデオ)

4 来年度の課題

- 1) 医療ガスに関する環境整備（法令順守）の徹底を行い事故防止に努める
- 2) 配管端末器、ホースアセンブリの日常点検の慣習化
- 3) 巡回点検により医療ガスの認識度を高める
- 4) 安全講習会を継続的に開催し、医療ガスによる事故防止の啓発活動に努める

（文責 井上 恒佳）

■臨床研修管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
委員	柏木 秀幸 (院長)	委員	梶本 徹也 (外科部長)
委員	後藤 博一 (泌尿器科部長)	委員	秋山 直枝 (小児科副部長)
委員	井上 恒佳 (麻酔科部長)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科部長)
委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科部長)	委員	大沼 幹雄 (事務部長)
委員 (外部)	伊藤 正仁 (富士保健所)	委員 (外部)	高木 啓 (鷹岡病院)
委員 (外部)	上田 正山 (上田クリニック)	委員 (外部)	中西 史憲 (中西眼科クリニック)
委員 (外部)	川村 統勇 (川村病院)	委員 (外部)	小松 勝利 (小松クリニック)
委員 (外部)	北西 史直 (北西医院)	委員 (外部)	渡邊英一郎 (富士整形外科病院)
事務局	鈴木 裕子 (病院総務課)		

2 開催状況

第1回臨床研修管理委員会 (令和2年3月17日)

議題 (1) 令和元年度事業報告及び令和2年度事業計画 (案) について

(2) 研修医の初期臨床研修修了認定について

(3) 令和元年度・2年度の初期臨床研修医について

(4) 臨床研修案内及びプログラム (案) について

3 令和元年度の取組実績

(1) 研修医採用

医師：6名、歯科医師：1名 (日本歯科大学協力病院として)

(2) マッチング

申込者：10名、マッチ：5名 再募集：1名

(3) 合同説明会参加

①メックマッチングフェア 2019

平成31年4月21日 (日) ベルサール新宿グランド

②eレジフェア 2019 東京

令和元年5月26日 (日) 東京ドームシティプリズムホール

③聖マリアンナ医科大学訪問

令和元年12月13日 (月)

(4) 医学生病院見学 延べ53名 (東京大学、京都大学、北海道大学、他)

(5) 東京慈恵会医科大学実習生 (クリニカルクラークシップ) 受入れ

消化器内科7名、循環器内科4名、外科10名、小児科10名

(6) 聖マリアンナ医科大学実習生受入れ

- 選択科（糖尿病・内分泌・血液内科） 2名
- (7) 浜松医科大学実習生受入れ
産婦人科 4名
- (8) 京都大学実習生受入れ
選択科（循環器内科） 1名
- (9) 川崎医科大学実習生受入れ
静岡県卒（内科） 1名
- (10) 沼津市立病院臨床研修医受け入れ
腎臓内科 2名
- (11) 医師・歯科医師・薬剤師志望の市内高校生 1日職場体験実施
令和元年8月7日（水） 27名（医師志望 14名、薬剤師志望 13名）
- (12) ブラック・ジャックセミナー協力（市内中学生手術模擬体験）
令和元年8月17日（土）
- (13) 初期臨床研修医基本的臨床能力評価試験実施
令和2年1月24日（金）
- (14) 合同研修会等参加
- ①静岡県主催初期臨床研修合同研修会
令和元年6月16日（土）
縫合、超音波診断の基礎（腹部、胸部）
 - ②院内 ICLS 講習会
令和元年6月30日（日）
 - ③静岡県主催東部地区初期臨床研修合同研修会
令和元年7月19日（金）
救急基礎固め
 - ④第162回静岡県外傷セミナーIn 富士
令和元年8月4日（土）
 - ⑤救護所訓練（外傷初期診療）
令和元年11月16日（土）
 - ⑥ふじのくに地域医療支援センター主催初期研修医合同研修
令和元年11月17日（日）
 - ⑦その他
 - ・臨床研修医スキルアップ研修（月1回）
 - ・医療安全研修、感染対策研修、院内C P C等

4 来年度の課題

引き続き、臨床研修の充実を図っていく。

（文責 笠井 健司）

■院内感染対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	後藤 博一（副院長兼感染対策室長）
委員	笠井 健司（副院長兼腎内科部長）	委員	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）
委員	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	大沼 幹雄（事務部長）	委員	勝又 千壽子（看護部）
委員	大石 悦子（看護部）	委員	加藤 寛史（薬剤科）
委員	石川 隆之（臨床検査科）	委員	渡邊 利英（病院総務課）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	玉舟 正弥（医事課）
委員	北島 美鈴（専従リスクマネジャー）	委員	本間 功武（感染対策専従看護師）
事務局	小松崎 亜也（感染対策室）		

H I V部会スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	部員	6名

2 開催回数

12回（毎月1回、第1金曜日医療安全管理委員会と同時開催）

3 令和元年度の実績

病院感染低減のため感染防止活動の指示及び統括を行った。ICTからの検討事項の承認や、具体的な感染対策を審議し決定した。

また、新型コロナウイルス感染症に対しての情報を的確につかみ、院内及び地域と連携し感染防止対策を実践した。

4 来年度の課題

感染対策に関する最新知見やエビデンスを考慮した病院感染防止活動を推進し、安全な医療を提供し地域に信頼される病院となる。また、地域と連携し富士医療圏の感染対策強化に努める。

（文責 柏木 秀幸）

■倫理委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	後藤 博一 (副院長兼総括部長兼泌尿器科部長)	副委員長	藤井 常宏 (診療科兼糖尿病・内分泌・血液内科部長)
委員	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	委員	加藤 寛史 (薬剤科長)
委員	大沼 幹雄 (事務部長)	委員	玉舟 正弥 (医事課長)
外部委員	安倍 徹 (前静岡県教育長)	外部委員	石山 むづ美 (常葉大学保育学部教授)
事務局	伴野 晃仁 (病院総務課)		

2 開催回数

7回 (定例審査：5件、迅速審査18件)

3 令和元年度の取組実績

倫理委員会は、当院における医療の倫理に関する事項を審議するため、平成7年5月10日に設置された。

委員会を7回開催、23案件を審議した結果、委員会の意見等を付して22案件を承認した。

また、本年度は、DNARに関する指針の策定を進め、計5回に渡り検討を重ね「富士市立中央病院DNARの決定に関する基本方針及びガイドライン」の策定を行った。

申請内容	申請	承認	承認しない	取下げ	審議保留
論文化、学会雑誌への投稿	3	3	—	—	—
保険適用外の検査、診療、薬剤使用	7	6	—	1	—
他施設で行われる治験への参加	1	1	—	—	—
当院としての対応方針の検討	3	3	—	—	—
大学・財団等で行われる医学的研究への参加	9	9	—	—	—

4 来年度の課題

文部科学省・厚生労働省が定めた『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の原則を踏まえ、倫理的課題を積極的に取り上げ、定期的に委員会を開催し、迅速かつ精緻な審議を行っていく。

(文責 後藤 博一)

■訪問看護・退院調整委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	勝又 千壽子 (副看護部長)	副委員長	小野田 智恵子 (地域医療連携室)
委員	高野 裕樹 (外科)	委員	安藤 精貴 (糖尿病・内分泌・血液内科部長)
委員	田中 ゆりの (栄養科)	委員	佐藤 実香 (薬剤科)
委員	田中 圭子 (6 A病棟)	委員	奥之山 久美子 (5 B病棟)
委員	新名 美佐子 (7A病棟)	委員	渡邊 弘江 (6 B病棟)
委員	大原 知子 (外来D)	委員	中村 公美 (リハビリテーション科)
委員	赤堀 崇代 (地域医療連携室)	委員	加藤 浩子 (地域医療連携室)
委員	遠藤 卓馬 (地域医療連携室)	委員	佐山 侑希 (病院総務課)

2 開催回数

3回 (6月、10月、3月 第3水曜日)

3 令和元年度の取組実績

- (1) 新規訪問看護患者・訪問看護実施患者の紹介と経過報告及び訪問看護終了者報告
新規者及び訪問看護実施中の患者について訪問看護師より状態説明を行い、困難ケースや在宅終末期ケアの実際を他のスタッフと検討した。さらに、訪問看護の終了者の事例を検討し、看護の実際について情報を共有した。
- (2) 退院調整患者報告
退院調整実施患者の報告を行い、困難事例について検討した。
- (3) 訪問看護・退院調整業務の運営について、問題点を抽出し改善点について検討した。
- (4) 在宅終末期ケアが必要な患者・家族への支援について事例検討会を行った。
- (5) 多職種 (薬剤師、栄養士等) に事例提供を依頼し、事例検討会を行った。

4. 来年度の課題

令和2年度の病院指針「深めよう知識と技術 つなげよう地域医療と在宅医療」のもと、看護部の訪問看護退院調整担当委員会と連携し、さらに専門的ケアが必要な患者に対しては他分野の認定看護師と同行訪問し、患者・家族の満足度が向上する活動を実施していく。

(文責 勝又 千壽子)

■栄養管理委員会

1. スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 俊雅 (外科)	副委員長	石川 隆之 (臨床検査科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	秋山 直枝 (小児科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	勝又 千壽子 (看護部長室)
委員	齋藤 正美 (4 A病棟)	委員	松山 早登美 (5 B病棟)
委員	芳野 由規子 (6 A病棟)	委員	勝又 祐子 (7 B病棟)
委員	大沼 幹雄 (事務部長)	委員	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	玉船 正弥 (医事課)	事務局	小俣 朋子 (栄養科)
事務局	古郡 朝子 (栄養科)	事務局	田中 ゆりの (栄養科)
事務局	菊地 実奈子 (栄養科)	事務局	金指 麻衣 (栄養科)

2. 開催回数

12回：毎月定例会報告（H31. 4月～R2. 3月）及び5月・7月・10月の3回はランチミーティングにて開催した。

3. 令和元年度の取組実績

- ①委員会のメンバーで昼食(常食 1600kcal)を検食し献立の確認を行った。
- ②食事についての嗜好調査実施結果を報告した。(年間4回実施)
- ③箸、スプーン、マグカップの個数については、定期的に報告し合わせて破損状況も確認、紛失・破損に対しては追加購入を行い、委託側で補充対応している。
- ④異物混入等の食事に関するインシデント・アクシデントについての報告を行い委員会内でその後の対応・改善策を報告、また誤配膳防止対策としては禁止食品があるコメント対応の患者に対しては、トレーの色分け（ピンク色）や専用食器を導入し、最終の目視チェックを強化し誤配膳の発生の防止に努めた。
- ⑤栄養指導件数の増加と収入の確保として、栄養指導枠の増設を行い、担当医へ栄養指導依頼を周知した結果、指導件数は前年度に比較し85件の増加となった。

4. 来年度の課題

- ・今後も検食、嗜好調査を通して病院食のさらなる改善をはかっていく。
- また、食事に関するインシデント・アクシデント報告については、他部門の意見を取り入れた再発防止策を実践していくことで、インシデント・アクシデント発生件数を減少するように努めていく。

(文責 鈴木 俊雅)

■中央放射線科運営委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	道本 顕吉（放射線科）	副委員長	後藤 博一（泌尿器科）
副委員長	高木 省一（中央放射線科）	委員	成瀬 瞳（心臓血管外科）
委員	三橋 真（整形外科）	委員	金井 友哉（消化器内科）
委員	入村 雄也（外科）	委員	山本 康平（脳神経外科）
委員	阪本 宏志（循環器内科）	委員	清水 則雄（中央放射線科）
委員	遠藤 佳秀（中央放射線科）	委員	杉山 伸一（中央放射線科）
委員	渡邊 かおる（外来看護長）	委員	望月 敦子（外来D）
委員	仁藤 伸代（外来D）	委員	鈴木 雅人（臨床検査科）
委員	平柳 圭佑（臨床工学科）	委員	原田 誠（病院総務課）
事務局	遠藤 一弘（中央放射線科）		

2 開催回数 2回

3 令和元年度の取組実績

- ・病診連携高度医療機器利用実績は、平成29年と比べ50人程度の減少となった。
- ・令和元年度医療機器購入については、アイソトープは機器本体の稼動に支障きたす事が考えられる。ポータブルは、購入から10年が経過し不具合が発生している。そのため、購入が妥当と考える。
- ・診療放射線技師の増員については、4月より臨時職員として技師が一人増員となった。
- ・保健所立入り検査は、文章及び口頭指導事項なし。
アドバイス事項については、非常勤医師の被ばく管理の検討。透視室使用の際は、扉に使用中の表示をする事。手術室にて外科用イメージを使用する場合は、管理区域設定の帳簿を作成すること。
- ・子宮動脈塞栓術について、放射線科より令和元7月からの開始。
- ・令和元年7月9日に院長、参与、病院総務課長、医師人材監、中央放射線科技師長が、山梨大学医学部放射線医講座大西教授を訪問した。

4 来年度の課題

- ・17室アンギオ装置の点検は、現在水曜日となっている。しかし直前に変更される事があり、対応に苦慮している。今後検討していく。

- ・機器購入方法については、診療科で購入希望機器があれば運用も含めてこの委員会に提案を検討していく。
- ・放射線検査の就業時間内終了については、アンギオ件数が多く又稼動時間が長時間に及ぶため就業時間内に終わらず超過勤務が多くなっている。負担軽減のため、件数等を調整したい。

(文責 道本顕吉)

■臨床検査連絡委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司(副院長兼腎内科部長)	副委員長	遠藤 泰彦(病理診断科)
副委員長	石川 隆之(臨床検査科)	委員	千葉 博胤(臨床検査科)
委員	三橋 真(整形外科)	委員	三川 秀文(臨床検査科)
委員	山城 秀樹(糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	池本 智(小児科)
委員	鈴木 英訓(泌尿器科)	委員	入村 雄也(外科)
委員	藤田 周佑(脳神経外科)	委員	矢田 大輔(産婦人科)
委員	大井 洋子(4A病棟)	委員	勝又 祐子(7B病棟)
委員	川口 愛美(医事課)	委員	佐山 侑希(病院総務課)
委員	鈴木 英昭(臨床検査科)	委員	鈴木 雅人(臨床検査科)
委員	渡邊由喜子(臨床検査科)		

2 開催回数

4回(6月、9月、12月、3月、第3水曜日)

3 令和元年度の取組実績

- ・富士市立中央病院CPC(医師会共催)2回、病理解剖報告会5症例開催した。
- ・日本臨床検査技師会、静岡県医師会精度管理調査結果はA評価となり、適正な精度管理のもとに臨床検査が実施されていることを報告した。
- ・部門別検査実施件数を提示し昨年度の業務実績と検査科の取り組みを報告した。
- ・病理検査室の適切な作業環境構築のため局所排気装置などの設備改修を行った。ホルマリン作業環境測定は「第1管理区分」となり管理濃度は適正となった。
- ・ホルダー心電図脱着時の皮膚損傷改善に向けマニュアルを改訂した。また報告書の様式変更とペーパーレス化を実施した。

4 来年度の課題

- ・新型コロナウイルスを迅速に診断するため院内検査体制を整備し早急に整える。
- ・信頼される検査データの提供に向けシステム整備と精度管理を更に向上させる。
- ・検査に係わる要望、意見、問題を取り上げ、臨床や他部門との連携を密にしながら課題には速やかに対応する。

(文責 笠井 健司)

■救急室運営委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長	阪本 宏志 (循環器内科) ~9月
副委員長	鈴木 俊雅 (外科)	副委員長	海野 浩寿 (小児科) ※
副委員長	渡邊 かおる (外来D)	委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)
委員	小田 彩子 (産婦人科)	委員	下村 達也 (泌尿器科) ~7月
委員	村上 雅哉 (泌尿器科) 8月~	委員	富永 光敏 (循環器内科) 10月~
委員	原田 直毅 (整形外科)	委員	池田 琢 (臨床検査科)
委員	菅原 和仁 (中央放射線科)	委員	望月 保子 (薬剤科)
委員	勝間田 賢 (臨床工学科)	委員	若本 奈緒美 (外来D)
委員	望月 敦子 (外来D)	委員	大原 知子 (外来D)
委員	渡邊 裕子 (地域医療連携センター)	事務局	秋山 英希 (病院総務課)

※平成31年4月から委員、令和元年10月から副委員長

2 開催回数

12回 (毎月1回、第2木曜日)

3 令和元年度の取組実績

令和元年度1年間の救急外来受診者数は8,630名であり、当院に入院となった患者総数は4,200名 (入院率48.7%)。そのうち、休日・祝日・夜間に救急外来を受診した患者総数は6,394名で、当院に入院となった患者総数は、3,004名 (入院率47.0%)であった。

救急車による搬入は総数で3,614名であった。そのうち、入院した患者数は2,213名 (入院率61.2%)であり、休日・祝日・夜間の救急車での搬入患者数は2,476名であった。そのうち、入院した患者数は1,510名 (入院率61.0%)であった。休日・祝日・夜間に医療センターより紹介された患者数は1,378名で、そのうち、入院となった患者総数は750名 (入院率54.4%)であった。診療所・開業医・病院から休日・祝日・夜間に紹介された患者総数は1,054名で、当院に入院となった患者総数は680名 (入院率64.5%)であった。

4 来年度の課題

一度に重症患者が重なった場合や冬季の病棟満床などで、救急搬送要請に十分な対応ができず、他医療機関への搬送を完全に回避することは難しい。このような状況を改善していくために、事例検証や問題解決に向けた検討を継続して行い、医師会をはじめとする関係機関との連携強化に努める。また、富士市消防本部との定期的な救急搬送に関する事例検討も行い、共通認識のもと任務を遂行する。

(文責 藤井 常宏)

■内視鏡室運営委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	金井 友哉 (消化器内科)	副委員長	渡邊 かおる (外来D)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	梶本 徹也 (外科)
委員	鍋島 雄和 (中央放射線科)	委員	勝又 祐子 (7B病棟)
委員	望月 敦子 (外来D)	委員	宇佐美 和代 (外来D)
委員	堤 恭子 (病院総務課)	事務局	内視鏡室

2 開催回数

6回 (隔月1回、第4月曜日)

3 令和元年度の取組実績

- ・ 内視鏡洗浄機が劣化し業務に支障をきたすため、平成31年4月からリース運用により最新式の洗浄機を導入した。結果的に購入するよりもコストを抑えることができた。
- ・ 胆道検査数の増加に合わせ、超音波内視鏡 (EUS) 用の胆道内視鏡用超音波観測装置 EU-ME2 を購入した。
- ・ 内視鏡指導施設を維持していくために、消化器内視鏡学会主導の JED システムの導入を検討した。(令和2年度導入予定)
- ・ 内視鏡室の安全管理について、本委員会で各職種の立場から意見を出し検討を行い、改善に努めた。

4 来年度の課題

- ・ 内視鏡室の時間外業務が増えているため、検査の待ち時間等の短縮を行い改善に努めていく。
- ・ 安心安全な検査を行えるよう、多職種ともコミュニケーションをとりながら運営していく。

(文責 金井 友哉)

■褥瘡対策委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	津嶋 友央 (皮膚科)	副委員長	齋藤 幸子 (ICU)
委員	山田 啓太 (形成外科)	委員	若林 久美子 (褥瘡対策専従)
委員	望月 敦子 (外来D)	委員	芦川 牧子 (手術室)
委員	佐野 幸代 (5B病棟)	委員	木野村 信子 (6A病棟)
委員	吉崎 美帆 (外来A)	委員	小俣 朋子 (栄養科)
委員	古郡 朝子 (栄養科)	委員	菊地 実奈子 (栄養科)
委員	田中 ゆりの (栄養科)	委員	金指 麻衣 (栄養科)
委員	松田 佑平 (薬剤科)	委員	山田 将史 (リハビリテーション科)
委員	渡邊 亜希子 (リハビリテーション科)	委員	遠藤 聡 (臨床検査科)
事務局	齋藤 智恵美 (医事課)	事務局	石田 佳奈 (医事課)
事務局	川口 愛美 (医事課)		

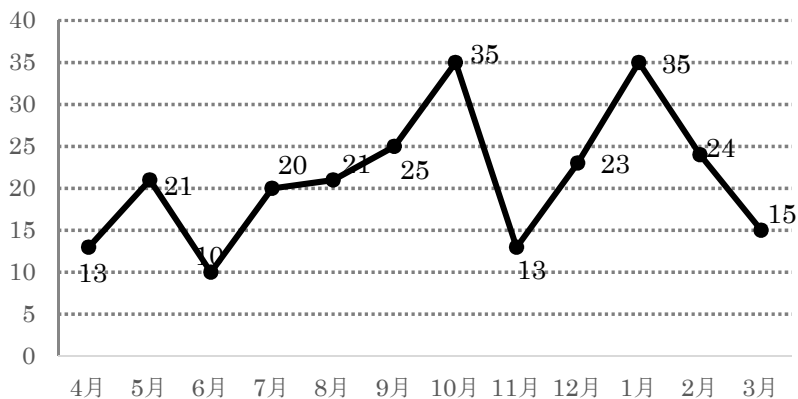
2 開催回数

9回 (毎月1回、第4火曜日 8月・12月・2月を除く)

3 令和元年度の取組実績

入院時にすでに褥瘡がある患者さん、および入院中に新たに褥瘡が発生した患者さんはすべて褥瘡チームが介入し、定期的に回診を行っている。回診は週に1回行っており、月ごとの回診件数を図1に示す。平均は21件/月。持ち込みの褥瘡の件数と入院中に新たに褥瘡が発生した件数を図2に示す。月ごとの褥瘡推定発生率(※)を図3に示す。令和元年度の年間平均値は、0.95%であり全国平均の1.60%より低い。

図1 褥瘡回診件数



褥瘡ハイリスク患者ケア加算（1入院につき1回算定：500点）は令和元年度で2,061件（月平均171件）算定した。

図2 褥瘡件数

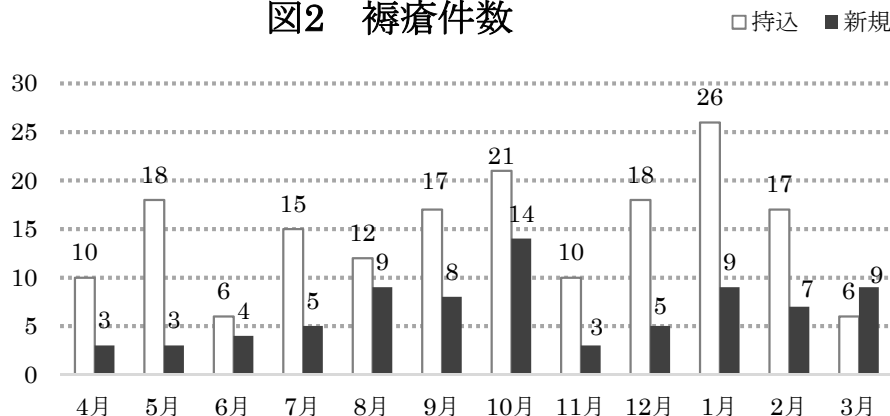
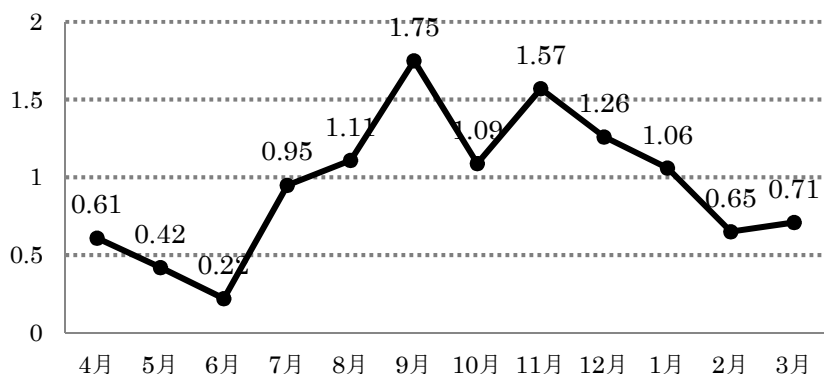


図3 褥瘡推定発生率 (%)



(※) 褥瘡推定発生率

$$\frac{(\text{調査日に褥瘡を保有する患者数} - \text{入院時すでに褥瘡を保有していた患者数})}{\text{調査日の施設入院患者数} \times 100}$$

令和元年度の体圧分散寝具の稼働率は98.6%であった。

令和元年10月18日に、彦根市立病院 皮膚・排泄ケア認定看護師（WOC）による勉強会を開催した。『褥瘡ゼロ病院の全員参加の褥瘡対策』をテーマとし、128名の職員が参加した。

4 来年度の課題

体圧分散用具を有効に活用し、引き続き褥瘡発生ゼロを目指していきたい。また、体圧分散用具やクッションの管理および更新を適切に行っていく。さらに、褥瘡カンファレンスや研修、勉強会の実施により、職員のスキルアップと知識の向上を図っていきたい。

(文責 津嶋 友央)

■クリニカルパス委員会

1 スタッフ

【委員会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久 (外科)	副委員長	勝又 祐子 (7 B病棟)
委員	土屋 学 (消化器内科)	委員	加藤 努 (整形外科)
委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委員	蒔田 憲太郎 (循環器内科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	齋藤 洋実 (3 C病棟)
委員	小坂 裕介 (薬剤科)	委員	島田 英介 (医事課)
事務局	白石 一希 (医事課)	事務局	高田 恭平 (医事課)

【クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久 (外科)	副部会長	齋藤 洋実 (3 C病棟)
副部会長	小林 拓巨 (7 B病棟)	部員	他 24 名

【化学療法クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久 (外科)	副部会長	勝又 祐子 (7 B病棟)
部会員	他 12 名		

【地域連携クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久 (外科)	部会員	他 8 名

2 開催回数

【委員会】 12 回 (毎月 1 回、第 1 金曜日)

【クリニカルパス部会】 12 回 (毎月 1 回、第 2 火曜日)

【化学療法クリニカルパス部会】 1 回 (原則第 4 金曜日)

【地域連携クリニカルパス部会】 開催なし

3 令和元年度の取組実績

令和元年度は、5 月 14 日、10 月 8 日、2 月 18 日の 3 回にわたって、クリニカルパス大会を開催し、それぞれ「クリニカルパスの基本」「心臓カテーテルのクリニカルパスについて」「バリエーション分析」をテーマに発表を行った。

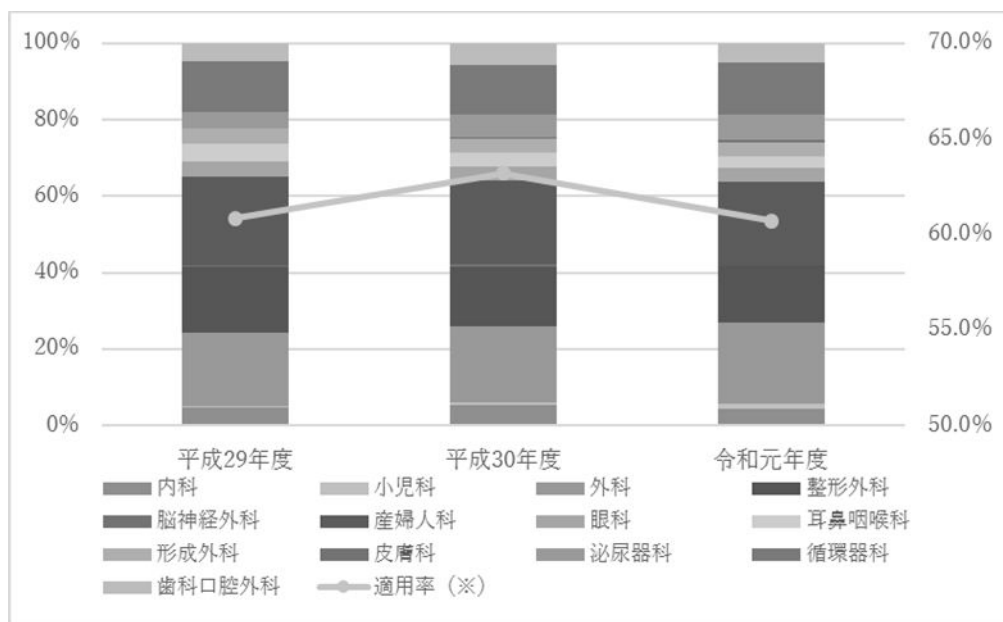
また、肺炎パスワードキンググループを立ち上げ、肺炎・誤嚥性肺炎のクリニカルパスの作成を行った。

令和元年度に適応したクリニカルパスは 7,518 件であり、29 年度から 3 年間の適応件数とその推移は表および図に示す通りである。

クリニカルパス適用件数

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	平均適用
内科	343	409	329	360
小児科	34	49	103	62
外科	1423	1521	1582	1509
整形外科	1299	1198	1122	1206
脳神経外科	24	43	19	29
産婦人科	1729	1672	1630	1677
眼科	293	285	278	285
耳鼻咽喉科	342	263	229	278
形成外科	300	273	281	285
皮膚科	16	41	48	35
泌尿器科	311	456	485	417
循環器科	1006	981	1024	1004
歯科口腔外科	341	440	388	390
総計	7461	7631	7518	7537
適用率 (※)	60.8%	63.2%	60.7%	61.6%

※ クリニカルパス適用率＝クリニカルパス適応件数÷電子カルテ上入院件数×100



4 来年度の課題

- ・クリニカルパスの管理・整備体制を充実させる
- ・Basic Outcome Master を利用したパスの作成を推進する

(文責 良元 和久)

■病院機能改善委員会

1 スタッフ

(1) 全体会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
副委員長	勝又 千壽子 (副看護部長)	副委員長	石川 隆之 (診療技術部長兼臨床検査科技師長)
委員	阪本 宏志 (ICU, 循環器内科)	委員★	良元 和久 (手術室, 5 B, 外科)
委員	野田 靖人 (3 B, 脳神経外科)	委員	矢田 大輔 (4 A, 産婦人科)
委員	海野 浩寿 (4 B, 小児科)	委員	重田 泰史 (5 A, 耳鼻咽喉科)
委員	安藤 精貴 (6 A, 糖尿病・内分泌・血液内科)	委員★	高橋 康人 (6 B, 腎臓内科)
委員	富永 光敏 (7 A, 循環器内科)	委員	金井 友哉 (7 B, 消化器内科)
委員	加藤 努 (3 C, 整形外科)	委員★	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長, 腎臓内科)	委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)
委員	外岡 雄二 (精神神経科)	委員	田口 真吾 (心臓血管外科)
委員	秋山 直枝 (小児科)	委員	梶本 徹也 (外科)
委員	山田 啓太 (形成外科)	委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長, 脳神経外科)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	後藤 博一 (副院長兼泌尿器科部長, 泌尿器科)
委員	藤谷 暢子 (眼科)	委員	道本 顕吉 (放射線科)
委員	井上 恒佳 (麻酔科)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)
委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)	委員★	井出 宣孝 (医療機器管理室)
委員★	望月 保子 (薬剤科)	委員	池谷 幸一 (臨床工学科)
委員	遠藤 一弘 (中央放射線科)	委員	小俣 朋子 (栄養科)
委員	中村 公美 (リハビリテーション科)	委員	齋藤 幸子 (集中治療室)
委員	森本 康江 (手術室)	委員	中村 三千代 (3 B病棟)
委員	鈴木 早苗 (4 A病棟)	委員	齋藤 正美 (4 B病棟)
委員	秋山 ゆかり (5 A病棟)	委員	松山 早登美 (5 B病棟)
委員	芳野 由規子 (6 A病棟)	委員	小林 由美 (6 B病棟)
委員	遠藤 里花 (7 A病棟)	委員	勝又 祐子 (7 B病棟)
委員★	柘植 範子 (3 C病棟)	委員	野澤 里美 (外来A)
委員	渡邊 かおる (救急外来)	委員★	田中 秀樹 (3 B病棟)
委員★	持田 和美 (4 B病棟)	委員★	藤田 久美子 (5 A病棟)
委員★	小林 宏美 (外来A)	委員★	勝亦 由美 (7 B病棟)
委員★	菅原 早苗 (4 A病棟)	委員★	宇佐美 和代 (外来D)
委員	金子 弘之 (病院経営課)	委員★	伴野 晃仁 (病院総務課)
委員★	原田 誠 (病院総務課)	委員★	寺田 和子 (医事課)
委員★	小野田 智恵子 (地域医療連携室)	委員	大塚 君子 (患者サポート室)

委員★	北島 美鈴 (医療安全対策室)	委員★	本間 功武 (感染対策室)
事務局	木内 啓人 (病院経営課)		

(2) 定例会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
副委員長	勝又 千壽子 (副看護部長)	副委員長	石川 隆之 (診療技術部長兼臨床検査科技師長)
委員	19名 (★は定例会委員を兼務)		

2 開催回数

- (1) 全体会：0回
- (2) 定例会：12回 (毎月第3火曜日)

3 令和元年度の取組実績

- (1) 病院機能評価受審後の改善活動状況の確認
- (2) 病院基本方針 (案) の作成
- (3) 患者さんアンケート調査の実施 (7月23日～26日)
- (4) 職員満足度調査の実施 (10月18日～11月22日)
- (5) 「KAIZEN!だより」の発行
- (6) 「イクボス度」チェックリストの配付
- (7) 部署別年度目標の管理

4 来年度の課題

病院機能評価の「期中の確認」に向け、指摘された課題についての改善活動状況確認を行い、より一層の改善活動の推進を図る。

(文責 伊藤 すみ子)

■NST委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	鈴木 俊雅 (外科)	副委員長	安藤 精貴 (内科)
副委員長	野澤 里美 (外来)	委員	海野 浩寿 (小児科)
委員	山本 康平 (脳神経外科)	委員	津嶋 友央 (皮膚科)
委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員	長橋 あゆみ (医療技術科)	委員	佐野 弘美 (リハビリテーション科)
委員	梅原 健人 (リハビリテーション科)	委員	佐野 僚子 (臨床検査科)
委員	三澤 延司 (薬剤科)	委員	木元 慎一郎 (薬剤科)
委員	阿部 一仁 (薬剤科)	委員	小俣 朋子 (栄養科)
委員	古郡 朝子 (栄養科)	委員	菊池 実奈子 (栄養科)
委員	中松 ゆりの (栄養科)	委員	金指 麻衣 (栄養科)
委員	小林 拓巨 (ICU)	委員	志村 圭三 (ICU)
委員	諸星 宮子 (3B病棟)	委員	大井 洋子 (4A病棟)
委員	井出 悦子 (5A病棟)	委員	若林 久美子 (褥瘡対策専従)
ワグナーバー	山田 啓太 (形成外科)	事務局	白石 一希 (医事課)
事務局	川口 愛美 (医事課)		

2 開催回数

10回 (毎月1回、第3木曜日 8月は除く 7月開催中止)

3 令和元年度の取組実績

①チーム活動

栄養評価・病院食改善チーム、摂食嚥下口腔ケアチーム、褥瘡対策チーム (褥瘡対策委員会) の3チームが日々活動しており、月に1度の委員会において、チーム活動報告、情報交換及び症例検討等を行っている。

〔栄養評価・病院食改善チーム〕

- ・毎週水曜日に栄養科でのカンファレンス及び病棟回診を行っている。

令和元年度 NST 回診 延べ 269 人 月平均 22.4 人

〔摂食嚥下口腔ケアチーム〕

- ・毎月第2木曜日、第4水曜日に回診を行っている。

令和元年度回診 延べ 29 人 月平均 2.4 人

〔褥瘡対策チーム（褥瘡対策委員会）〕

※褥瘡対策委員会のページで報告

②全職員対象のNST勉強会の開催

開催日	内 容	講 師	参加者
R01. 6. 20	褥瘡の栄養管理	クリニコ株式会社	76名
R01. 9. 19	どうすれば患者さんのADLを落とさずに早期退院できるか	リハビリテーション科 梅原 健人	80名
R01. 10. 17	経管栄養の合併症（逆流・嘔吐・下痢・便秘）とその対策	ネスレ株式会社	68名
R01. 11. 21	栄養評価方法について	外科 鈴木 俊雅 医師	68名
R02. 2. 20	糖尿病の栄養管理	内科 安藤 精貴 医師	61名

③研修会への参加

令和元年10月9日（水）付で日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設認定の更新を行った。

日本静脈経腸栄養学会 2019年度 TNT 研修会東北地区(令和元年6月15日(土)・16日(日)開催)、東海地区(令和元年6月29日(土)・30日(日)開催)、首都圏地区(令和元年7月27日(土)・28日(日)開催)に計3名の医師が参加し、栄養サポートチーム加算に係る専門資格を取得した。

また、令和元年10月8日（火）～令和元年12月17日（火）の期間に、NST教育認定施設である静岡市立清水病院で3名が10日間（計40時間）の研修を受け、栄養サポートチーム加算に係る研修を修了した。

4 来年度の課題

院内における「NST」の役割や重要性を更に広めるために、引き続きNST勉強会の開催を行っていききたい。また、各チーム活動の充実を図り、症例検討やカンファレンス等を積極的に行うとともに、栄養サポートチーム加算に係る研修の修了者や、NST専門療法士資格取得者を増員していききたい。

（文責 鈴木 俊雅）

■輸血療法委員会

1. スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	藤井 常宏(糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長	長峰 誠一郎(臨床検査科)
委員	成瀬 瞳(心臓血管外科)	委員	渡邊 俊宗(消化器内科)
委員	大谷 法理(麻酔科)	委員	高野 裕樹(外科)
委員	原田 直毅(整形外科)	委員	鈴木 英訓(泌尿器科)
委員	矢田 大輔(産婦人科)	委員	諸岡 暁(脳神経外科)
委員	芳野 由規子(6A病棟)	委員	遠藤 喜巳子(5B病棟)
委員	遠藤 大介(薬剤科)	委員	齋藤 智恵美(医事課)
委員	池田 琢(臨床検査科)	委員	千葉 博胤(臨床検査科)
外部委員	浅田 哲哉(日赤)	事務局	長峰 誠一郎(臨床検査科)

2 開催回数

6回(隔月、第3火曜日)

3 令和元年度の取組実績

- 輸血管理料 I、適正使用加算を維持した。
- 輸血業務に関連するインシデントの解析と改善方法を検討した。
- 血液製剤の使用量、輸血後感染症検査実施率、自己血の実績を報告した。
- 新人看護師研修にて講義を行った。
- 血液製剤の使用記録を抽出し検討した。
- 輸血後感染症検査実施率の推移を集計、報告した。
- 輸血業務手順書を改訂した。

血液製剤使用量の推移

種別	単位	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度 F/M比=0.23** A/M比=0.95**
赤血球製剤(M)	単位	6899	6064	6547	
凍結血漿(F)	単位	2180	2000	1676	
血小板製剤	単位	11000	10910	10980	
アルブミン(A)	単位	8400	8081	7135	

※輸血管理料 I 適正使用加算の条件は F/M:0.54 未満、A/M:2.0 未満であること。

4 今年度の課題

- ①血液製剤の適正使用を推進する。
- ②医師へ正しい業務手順を周知する。
- ③輸血管理料 I、適正使用加算を維持する。

(文責 藤井 常宏)

■医療安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (医療安全管理統括責任者)	副委員長	北島 美鈴 (専従リスクマネージャ)
委員	良元 和久 (手術室運営委員長)	委員	藤井 常宏 (救急室運営委員長)
委員	勝又 千壽子 (副看護部長)	委員	秋山 ゆかり (リスク担当看護長)
委員	白戸 幸子 (参事兼副看護長)	委員	加藤 實史 (医薬品安全管理責任者)
委員	高木 省一 (中央放射線科技師長)	委員	井出 宣孝 (医療機器安全管理責任者)
委員	石川 隆之 (診療技術部長兼検査科技師長)	委員	渡辺 利英 (病院総務課長)
委員	玉舟 正弥 (医事課長)	事務局	医療安全対策室

リスクマネジメント部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	北島 美鈴 (専従リスクマネージャ)	副部会長	遠藤 泰彦 (病理科部長)
部員	12名		

医薬品部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	加藤 實史 (医薬品安全管理責任者)	部員	7名

医療機器部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	井出 宣孝 (医療機器安全管理責任者)	副部会長	池谷 幸一 (中央放射線科主任)
部員	9名		

2 開催回数

- (1) 医療安全管理委員会 12回 (毎月1回、第4金曜日)
- (2) リスクマネジメント部会 12回 (毎月1回、第3木曜日)
 - ・薬剤・製剤グループ 12回 (毎月1回、第2水曜日)
 - ・転倒転落グループ 12回 (毎月1回、第2火曜日)
 - ・5Sグループ 12回 (毎月1回、第1水曜日)
- (3) 医薬品部会 7回
- (4) 医療機器部会 11回

3 令和元年度の取組実績

- (1) 心肺蘇生講習会開催、271名に実施した

(2) リスクマネジメント部会

- ・薬剤・製剤グループ
薬剤科巡回：調剤リスク防止対策
- ・転倒転落グループ
病棟巡回：ベッド周囲の環境調査
- ・RMたよりの発行 12回
- ・医療安全推進週間（令和元年11月24日～11月30日）「誤薬防止」をテーマに全職員に標語を募集し516作の応募があった。最優秀標語を11月中全職員が名札に入れることで医療安全の意識高揚に努めた
- ・医療安全研修
第1回「大規模災害発生時の対応＜病院職員の基本的知識＞」 6回開催
第2回「医療機関における事故発生時の法的責任と事故対応」 3回開催

(3) 医薬品部会

- ・「救急カート内のボスミン注アドレナリン注シリンジ使用について」の注意喚起
- ・「ノバスタンHI注使用について」の注意喚起

(4) 医療機器部会

- ・医療機器安全使用のための勉強会 87回
 - ① 人工呼吸器取り扱い
 - ② 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い
 - ③ 新規医療機器

4 来年度の課題

更なる医療の質と安全の向上を図るため、積極的に活動し、医療安全の対策に係わる各種委員会との役割分担及び連携体制の強化を図っていく

また、医療安全対策室、委員会の下部組織であるリスクマネジメント部会、医薬品部会、医療機器部会の事業をサポートしていく

<活動内容>

- ・院内心肺蘇生講習会を、引き続き全職員に実施する
- ・アレルギー入力率・画像確認率・病理診断確認率100%をめざす
- ・医療安全研修の受講率80%をめざす

(文責 諸岡 暁)

■緩和ケア委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也 (外科部長)	副委員長	芳野 由規子 (6 A病棟)
委員	入村 雄也 (外科)	委員	外岡 雄二 (精神神経科部長)
委員	川口 敬 (薬剤科)	委員	小坂 裕介 (薬剤科)
委員	永嶋 泰玄 (リハビリテーション科)	委員	中嶋 信夫 (リハビリテーション科)
委員	戸塚 美晴 (外来C)	委員	前嶋 良子 (外来B)
委員	尾崎 悦子 (3 B病棟)	委員	佐野 陽子 (7 B病棟)
委員	神谷 ちとせ (5 A病棟)	委員	佐野 かなえ (外来A)
委員	吉村 康恵 (3 B病棟)	委員	佐藤 理絵 (地域医療連携室)
事務局	岩垣 哲也 (地域医療連携室)	事務局	小林真紀子 (患者サポート室)

2 開催回数 11回

3 令和元年度の取組実績

- (1) 定例会による緩和ケア関連の検討や毎週実施する病棟回診に委員会スタッフ全員で取り組んだ。
- (2) 緩和ケアの院内への啓発とスキルアップ及び共通認識を持つことを目的として、PEACE (日本緩和医療学会・緩和ケアプログラム) を用いた勉強会を外部講師や委員講師により定期開催し、10月27日(日)に「がんに携わる医師への緩和ケア研修会」を自院にて開催し、医師や薬剤師、看護師の28名が修了した。
- (3) 在宅療養においても緩和ケアのニーズが増す中、「地域がん診療病院」として地域の医療機関との連携の強化に引き続き取り組んでいきたいと考えている。



[外部講師による緩和ケア勉強会の様子]

4 来年度の課題

- ・緩和ケア研修会の開催
- ・病棟回診及び勉強会の充実と開催
- ・必要な薬剤、医療器具の導入
- ・地域がん診療連携拠点病院との緩和ケア関連の連携強化

(文責 梶本 徹也)

■広報委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	大沼 幹雄（事務部長）	副委員長	高橋 康人（腎臓内科）～8月
副委員長	富永 光敏（循環器内科）9月～	委員	安藤 精貴（糖尿病・内分泌内科）
委員	岩崎 佐知子（臨床検査科）	委員	鍋島 雄和（中央放射線科）
委員	高橋 良太（リハビリテーション科）	委員	藤井 文音（薬剤科）
委員	遠藤 里花（6A病棟）	委員	東川 真理（5B病棟）
委員	秋山 英希（病院総務課）	委員	露木 秀俊（医事課）
委員	高田 恭平（医事課）	事務局	角入 あゆ美（病院経営課）

2 開催回数

4回（6月、9月、12月、3月）

3 令和元年度の取組実績

①広報誌部会の開催及び病院だよりの発行

当院では平成20年7月から病院だよりの発行を行っている。病院だよりの発行回数は年4回（4月、7月、10月、1月）、発行部数は92,200部で富士市内の全世帯に配布している。病院だより編集のために広報誌部会を開催し、当院の診療情報や健康及び疾患予防に関する情報などを広く市民の皆さまや患者さんに伝えるため、掲載記事の選定や内容について議論を行った。

②ウェブサイト部会の開催及びウェブサイトの管理

情報量の多さや速報性といったウェブサイトのメリットを生かした情報発信を行うため、ウェブサイト部会を開催し、主に更新内容の確認や取組発信エリアの活用について検討した。また、広報媒体として外来表示盤やエントランスホール広告モニターを活用し当院の情報を発信した。

4 来年度の課題

病院だよりでは、市民の皆さまや患者さんに安心して当院を利用していただくため、地域の基幹病院としての取組状況、健康や予防に関する情報を掲載していく。ウェブサイトについては、利用者ニーズに応じた迅速な情報発信やトップページ取組発信エリアを活用した情報発信に努める。引き続き、外来表示盤やエントランスホール広告モニターも活用しながら情報発信していく。

（文責 大沼 幹雄）

■食堂・売店検討委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	森田 合莉 (臨床検査科)	委員	澤口 信孝 (中央放射線科)
委員	岩本 一徳 (薬剤科)	委員	田中 ゆりの (栄養科)
委員	角入 あゆ美 (病院経営課)	委員	小川 美香 (食堂職員)
委員	池邊 貴子 (売店職員)		
事務局	原田 誠 (病院総務課)	事務局	堤 恭子 (病院総務課)

2 開催回数

1回

3 令和元年度の取組実績

- ・ 食堂および売店メニューの検討
- ・ 委員会を廃止し、今後は病院総務課が連絡調整窓口としていくことで承認された。

(文責 伊藤 すみ子)

■経営改革推進委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	後藤 博一 (副院長兼泌尿器科部長)	副委員長	大沼 幹雄 (事務部長)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	石川 隆之 (診療技術部長兼臨床検査科技師長)	委員	高木 省一 (中央放射線科)
委員	加藤 寛史 (薬剤科)	委員	勝又 千壽子 (副看護部長)
委員	齋藤 正美 (4B病棟)	委員	小野田 智恵子 (地域医療連携室)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	玉舟 正弥 (医事課)	事務局	金子 弘之 (病院経営課)

2 開催回数

8回 (毎月第4水曜日)

3 令和元年度の取組実績

①単年度事業計画書について

今年度からの5か年計画として策定した第三次中期経営改善計画を実効性のあるものにするため、平成31年度事業計画書を作成し院内周知するとともに、平成30年度事業計画の自己評価を行った。

②病床機能報告について

厚生労働省へ提出する当院の機能について検討した。定量的基準として示された「静岡方式」に基づき一部病棟の機能を見直した。全体としては、引き続き高度急性期機能と急性期機能を果たす病院として医療を提供していくことを確認した。

③病院経営分析チームの提案の確認

今年度事務部に設置された病院経営分析チームから提案された「医療機器レンタル・購入の最適化」と「医師事務作業補助者の有効活用」について確認した。レンタル機器の見直しにより、無菌室への改修検討を関係部署に依頼した。

4 来年度の課題

令和元年度事業計画の自己評価を行うとともに、富士市立中央病院経営懇話会による外部評価を実施し、結果を公表する。

また、令和2年度事業計画の各事業の進行管理を行う。

(文責 笠井 健司)

■化学療法委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長	後藤 博一 (泌尿器科)
委員	良元 和久 (外科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	青木 祐磨 (消化器内科) *1	委員	渡邊 俊宗 (消化器内科) *2
委員	川口 敬 (薬剤科)	委員	木元 慎一郎 (薬剤科)
委員	野澤 里美 (外来A)	委員	白井 さつき (外来B)
委員	田中 圭子 (6 A病棟)	委員	村松 由貴子 (がん化学療法認定看護師)
委員	勝亦 由美 (7 B病棟)	委員	諸星 宮子 (3 B病棟)
委員	河合 利枝 (5 B病棟)	事務局	岡本 功 (医事課)
事務局	川本 悦子 (医事課)	事務局	白石 一希 (医事課)

*1 令和元年4月1日～12月31日 *2 令和2年1月1日～3月31日

2 開催回数

18回 (毎月1回、第4火曜日) 定期開催 11回 臨時開催 7回

3 令和元年度の取組実績

年間を通して新規レジメンの検討・承認、通院治療室運用についての検討、化学療法クリニカルパス作成のためのクリニカルパス委員会との連携を行った。新規レジメンは今年度14種類の検討・承認を行った。レジメン集は9件提出された。

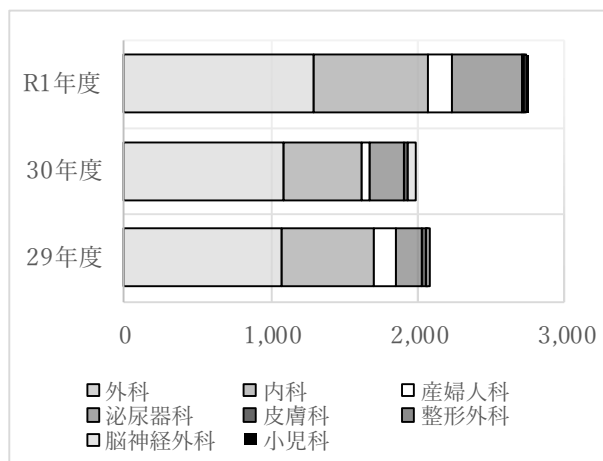
ウェブにて他施設でのキャンサーボードに参加する体制を検討した。

4 来年度の課題

地域がん診療病院の要件となる拠点病院と連携したレジメン審査とレジメン集の整備、ホームページへのレジメン一覧の掲載、他施設とのウェブ等による連携、副作用対策を検討課題とする。

科別レジメン適用件数

診療科	29年度	30年度	R1年度
外科	1,079	1,084	1,293
内科	625	537	781
産婦人科	146	55	162
泌尿器科	177	235	474
皮膚科	23	19	15
整形外科	1	0	0
脳神経外科	33	54	20
小児科	0	0	6
総数	2,084	1,984	2,751



(文責 藤井 常宏)

■診療材料検討委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	阪本 宏志 (循環器内科部長)	副委員長	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	山城 秀樹 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	高野 裕樹 (外科) ~11月	委員	北村 博頭 (外科) 12月~
委員	木原 匠 (整形外科) ~6月	委員	山下 紀 (整形外科) 7月~
委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	川口 敬 (薬剤科)	委員	杉山 伸一 (中央放射線科)
委員	杉山 弘一 (臨床工学科)	委員	勝又 千壽子 (副看護部長)
委員	森本 康江 (手術室)	委員	渡邊 かおる (外来D)
委員	本間 功武 (感染対策室)	委員	清水 涼真 (病院経営課)
委員	高田 恭平 (医事課)	委員	原田 誠 (病院総務課)
事務局	堤 恭子 (病院総務課)	事務局	佐山 侑希 (病院総務課)

2 開催回数

12回 (毎月1回、第2月曜日)

3 令和元年度の取組実績

① 新規診療材料等の採択に関する検討

・新規採用 40 件

② SPD 委託業者により価格削減提案された商品採用の承認 等

・切替提案商品 (規格違い含む) 55 件、現行品削減件数 21 件

・年間削減実績 66,455,064 円

③ 診療材料に係る価格協力要請説明会の実施

4 来年度の課題

引続き、新規採用診療材料等の適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

(文責 阪本 宏志)

■ I C U 運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	阪本 宏志 (循環器内科)	副委員長	野田 靖人 (脳神経外科)
副委員長	齋藤 幸子 (集中治療室)	委員	成瀬 瞳 (心臓血管外科)
委員	入村 雄也 (外科)	委員	高橋 康人 (腎臓内科)
委員	佐野 達哉 (臨床工学科)	委員	深澤 史朗 (リハビリテーション科)
委員	野澤 治 (集中治療室)	委員	渡邊 葉子 (集中治療室)
事務局	高田 恭平 (医事課)	事務局	石田 佳奈 (医事課)

2 開催回数

4回 (第3月曜日)

3 令和元年度の取組実績

(1) ICU の運営

セントラルモニターとベッドサイドモニターの更新について、令和2年度医療機器申請について、ICU内へのエコーの設置について、新型コロナウイルス患者の対応についてなどの検討を行った。

(2) 統計報告

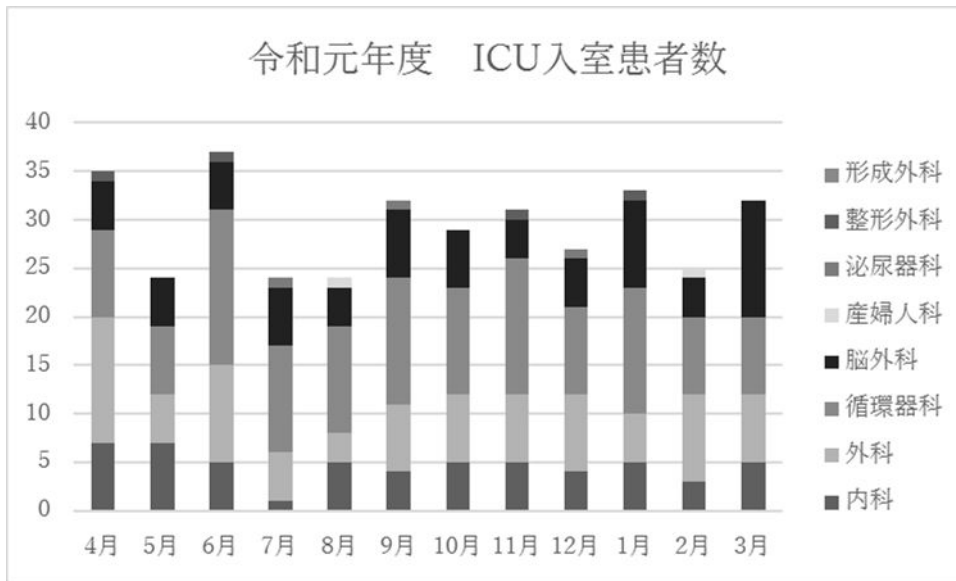
【表1】ICU科別月別入室患者数

【表2】ICUにおける急性血液浄化件数

【表3】ICUにおけるIABP、PCPS件数

【表1】ICU科別月別入室患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	7	7	5	1	5	4	5	5	4	5	3	5	56
外科	13	5	10	5	3	7	7	7	8	5	9	7	86
循環器科	9	7	16	11	11	13	11	14	9	13	8	8	130
脳外科	5	5	5	6	4	7	6	4	5	9	4	12	72
産婦人科					1						1		2
耳鼻咽喉科													0
泌尿器科				1		1			1				3
整形外科	1		1					1		1			4
歯科口腔外科													0
形成外科													0
月合計	35	24	37	24	24	32	29	31	27	33	25	32	353



単位:人

【表2】ICUにおける急性血液浄化件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CHDF	5	7	3	3	2	4	4	9	6	6	5	4	58
PMX	3	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	6
PE	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
月合計	8	8	4	3	2	5	4	10	6	6	6	4	66

【表3】ICUにおけるIABP、PCPS件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
IABP	2	0	8	2	5	5	0	3	1	2	2	4	34
PCPS	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	1	5
月合計	2	0	8	2	6	5	0	4	3	2	2	5	39

4 来年度の課題

令和2年度より新設された、早期栄養管理加算の取得と運用の決定。

(文責 阪本 宏志)

■医療事故調査委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委員	内科系医師 (その都度指名)
委員	外科系医師 (その都度指名)	委員	石川 隆之 (診療技術部長兼技師長)
委員	勝又 千壽子 (副看護部長)	委員	渡辺 利英 (病院総務課長)
委員	玉舟 正弥 (医事課長)	委員	北島 美鈴 (副看護部長兼専従リスマネジャー)
事務局	伴野 晃仁 (病院総務課)		

2 開催回数

11回 (案件により随時開催)

3 令和元度の取組実績

医療事故についての具体的な調査検討を目的とした委員会を11回開催し、11件の症例についての検討を行い、それぞれの関係部署に体制の見直し等を要請した。

4 来年度の課題

より積極的に医療事故の検証に取り組む。引続き一定程度以上の医療事故およびオカレンスレポートからも事例を選んでいく。

(文責 諸岡 暁)

■医療事故対策委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）	委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	石川 隆之（診療技術部長兼技師長）	委員	大沼 幹雄（事務部長）
委員	渡辺 利英（病院総務課長）	委員	北島 美鈴（副看護部長兼専従リスキーマネージャー）
事務局	伴野 晃仁（病院総務課）		

2 開催回数

3回（案件により随時開催）

3 令和元年度の取組実績

医療事故対策委員会は、緊急対応を必要とする医療事故が発生した場合、その事故に係わる当院の方針を決定することを目的として、平成21年9月に設置された。

令和元年度は、委員会を3回開催し、医療事故における正確な事実確認・状況把握を行い、当院の方針を決定した。

4 来年度の課題

委員会の開催を必要とする医療事故が万が一発生した場合は、速やかに委員会を開催し、事実関係に基づき最善の方針を決定していく。

（文責 柏木 秀幸）

■血液浄化・透析機器安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	高橋 康人（腎臓内科）	副委員長	佐野 達哉（臨床工学科）
委員	野澤 里美（外来A）	委員	齋藤 幸子（集中治療室）
委員	田島 眞弓（外来A）	委員	佐野 かなえ（外来A）
事務局	露木 秀俊（医事課）	事務局	川本 悦子（医事課）

2 開催回数

12回（毎月1回、第3水曜日）

3 令和元年度の取組実績

- ・ 毎月の委員会において、透析室水質管理表の報告（表1）、急性血液浄化及び維持透析等の実施状況の確認を行った。
- ・ 透析にかかわる各種医療機器の購入・更新・保守について適宜検討を行った。
- ・ 災害時における拠点病院としての役割や透析患者への対応について確認を行った。
- ・ 診療報酬改定で大きく見直しがあったため、運用等の確認を行った。

血液透析施行患者数	288人	（血液透析施行件数 2,647件）
腹膜透析診療患者数（年度末）	11人	
うち血液透析＋腹膜透析併用療法患者数	0人	
維持透析導入患者数	67人	（血液透析 66人、腹膜透析 1人）
急性血液浄化施行患者数	65人	（146件）
うち持続血液濾過透析	47人	（103件）
エンドトキシン吸着療法	6人	（6件）
二重濾過血漿交換	5人	（14件）
血漿交換	4人	（11件）
白血球除去療法	3人	（12件）

表 1 - 透析室水質管理表 (令和元年度)

	RO		セントラル	
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)
4月	0.00726	0	0.00072	0
5月	0.00845	0	0.00073	0
6月	0.00661	0	0.00072	0
7月	0.00765	0	0.00072	0
8月	0.00684	0	0.00073	0
9月	0.00723	0	0.00073	0
10月	0.00806	0	0.00072	0
11月	0.00775	0	0.00071	0
12月	0.00831	0	0.00072	0
1月	0.00795	0	0.00072	0
2月	0.00815	0	0.00073	0
3月	0.00845	0	0.00071	0

	コンソール		コンソール		コンソール No.
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	
4月	0.00072	0	0.00072	0	⑨ ⑩
5月	0.00073	0	0.00073	0	① ②
6月	0.00072	0	0.00072	0	③ ④
7月	0.00072	0	0.00072	0	⑤ ⑥
8月	0.00073	0	0.00073	0	⑦ ⑧
9月	0.00073	0	0.00073	0	⑨ ⑩
10月	0.00072	0	0.00072	0	① ②
11月	0.00071	0	0.00071	0	③ ④
12月	0.00072	0	0.00072	0	⑤ ⑥
1月	0.00072	0	0.00072	0	⑦ ⑧
2月	0.00073	0	0.00073	0	⑨ ⑩
3月	0.00071	0	0.00071	0	① ②

4 来年度の課題

- ・ 老朽化の進んでいる機器、耐用年数超えの機器の更新を行っていく。
- ・ 新規導入患者の増加への対応について検討していく。

(文責 高橋 康人)

■周産期医療機器管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	矢田 大輔（産婦人科副部長）	副委員長	藤多 慧（小児科）
委員	鈴木 早苗（4 A看護長）	委員	齋藤 正美（4 B看護長）
委員	堤 恭子（病院総務課）	委員	勝間田 賢（臨床工学科）
事務局	臨床工学科		

2 開催回数

令和元年度 2回開催

3 令和元年度の取組実績

- 1) 周産期に係わる医療機器（主に保育器、分娩監視装置、搬送用保育器、インフューズポンプ、セントラルモニター）の更新計画に基づいて医療機器の申請を行った。
- 2) 周産期に係わる医療機器の保守点検実施及び保守費用申請。
- 3) 小児科用呼吸器3台のレンタルを中止し、購入した。機器の運用方法は臨床工学科と検討した。

4 来年度の課題

- 1) 委員会から要望した機器は、病院のご理解を頂き徐々に整備されているが、修理不能、メンテナンス終了になる機器も存在してくるため、より一層機器の必要性をご理解いただき機器更新を行っていききたい。
- 2) 周産期医療の安心・安全な提供ができるように委員会活動を行っていききたい。

（文責 矢田 大輔）

■地域連携運営委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	鈴木 俊雅 (外科)
委員	秋山 直枝 (小児科)	委員	高木 省一 (中央放射線科)
委員	中村 公美 (リハビリテーション科)	委員	勝又千壽子 (副看護部長)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	玉舟 正弥 (医事課)
委員	小野田智恵子 (地域医療連携室)	事務局	岩垣 哲也 (地域医療連携室)

2 開催回数

12回 (毎月1回 最終木曜日)

3 令和元年度の取組実績

(1) 病診連携、病病連携の推進

- ・「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」の開催(2回)
富士市医師会と共同開催し、病診連携事業の報告や情報交換、症例検討を実施
- ・「富士市病院相互連絡会議」1回及び「地域医療連携部会」2回の開催
市内有床病院(9病院)の病院長、地域連携担当者と病病連携について意見交換

(2) 地域の医師等を含めた検討会や講習会等の研修

- ・地域連携の課題などにスポットをあてたWeb研修会を開催(1回)

(3) その他、地域連携に関すること

- ・「富士市立中央病院 診療科医師のご紹介」冊子刊行、「連携室だより」(3回)発行
- ・「ふじのくにねっと」と「連携安心カード」の普及啓発
- ・富士市薬剤師会の「薬局と医療機関の連携強化事業」(県委託事業)への協力
- ・静岡県性暴力被害者支援センター(SORA)への協力医療機関について検討、承認

4 来年度の課題

- ・「地域医療支援病院」として紹介率及び逆紹介率の維持、向上
- ・病診連携の推進のための返書率向上
- ・「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」と「医療連携部会」の運営
- ・地域の医師等を含めた検討会や講習会等の研修の検討
- ・「富士市立中央病院 診療科医師のご紹介」冊子、「連携室だより」の見直し、発行
- ・「連携安心カード」、「ふじのくにねっと」の運用と利用啓発

(文責 後藤 博一)

■患者サービス向上委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	伊藤 すみ子(副院長兼看護部長)	副委員長	加藤 努(整形外科)
委員	外岡 雄二(精神神経科)	委員	柏木 里沙子(臨床検査科)
委員	佐藤 実香(薬剤科)	委員	大石 悦子(副看護部長)
委員	渡邊 かおる(外来D)	委員	加藤 珠永(外来C)
委員	小澤 花子(外来C)	委員	本多 すみ江(3C病棟)
委員	諸星 美恵子(3B病棟)	委員	渡邊 裕子(患者サポート室)
委員	市川 恵未(病院総務課)	委員	川本 悦子(医事課)
委員	斉藤 美智代(ニチイ)	委員	千須和 恵(ニチイ)
事務局	角入 あゆ美(病院経営課)		

2 開催回数

11回(毎月第4木曜日)

3 令和元年度の取組実績

- (1) 毎月開催される管理会議、院内連絡会議及び医局会におけるお礼状の報告
- (2) あいさつ運動(7月、11月の各月2日間)
- (3) 院内掲示物巡回(6月27日)
- (4) 正面玄関前広場花壇における花苗の植え替え(4月、6月、9月、11月)
- (5) 院内ギャラリーの運営

展示月	展 示 会 名	団 体 名 等	出展作品
4月	ジグソーパズル クロスステッチ	非公開	ジグソーパズル クロスステッチ
5月	心の景色展	齊藤 卓司	絵画
6月	鈴木喜美子きめ込み絵画展	鈴木 喜美子	絵画
7月	ききょうの郷 通所リハビリ展示会	ききょうの郷 通所リハビリ	ぬり絵、書道、 お花紙アート等
8月	色鉛筆画展示会	ふじのふもと 色鉛筆アートの会	絵画
9月	にがお絵作品展示会	にがお絵アートの会	絵画

展示月	展 示 会 名	団 体 名 等	出展作品
10月	竹明哥作品展	佐野 明美	竹筆の書
11月	“気付けば77”展	渡辺 勝子	絵画
12月	神氣竹筆作品展	竹明哥と仲間たち	竹筆の書
1月	第28回MOA美術館 富士児童作品展	MOA美術館富士児童 作品展実行委員会	絵画、書写
2月	第28回MOA美術館 富士児童作品展	MOA美術館富士児童 作品展実行委員会	絵画、書写
3月	ふじのふもと色鉛筆画展示会	ふじのふもと 色鉛筆アートの会	絵画

(6) 院内コンサート

- ・富士川ウインドアンサンブル（8月2日）
- ・元吉原ウインドアンサンブル（12月10日）

(7) 接遇研修

- ・全体研修（11月7日、12月19日） 講師：QNETWORK 津坂 知英子 先生
- ・診療部研修（11月29日） 講師：中北薬品株式会社 田代 公子 先生

(8) 公衆電話の必要性について

(9) 正面玄関南側花壇の今後の方針について

(10) 職員間の挨拶を徹底することについて

(11) 性的マイノリティの方への対応について（継続中）

4 来年度の課題

今年度と同様に、お礼状の報告、あいさつ運動、院内掲示物の巡回、院内ギャラリーにおける展示会の開催、院内コンサートの開催に取り組む。

接遇研修については、患者さんアンケート結果と職員満足度調査結果をもとに内容や回数を検討し、より効果的な研修となるよう努める。

また、性的マイノリティの方への対応について、引き続き検討する。

（文責 伊藤 すみ子）

■学術活動推進委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	高橋 康人 (医局長:腎臓内科) ~8月
副委員長	富永 光敏 (医局長:循環器内科) 9月~	委員	鈴木 俊雅 (外科)
委員	大石 悦子 (副看護部長)	委員	森本 康江 (手術室)
委員	鈴木 和訓 (中央放射線科)	委員	小林 正典 (薬剤科)
委員	角入 あゆ美 (病院経営課)	委員	岩垣 哲也 (地域医療連携センター)
委員	白石 一希 (医事課)	事務局	守屋 良紀 (病院総務課) ~10月
事務局	伴野 晃仁 (病院総務課) 11月~		

2 開催回数

13回 (毎月1回、第3水曜日)

3 令和元年度の取組実績

学術活動の企画・立案・運営及び、学術に関する病院資産の有効活用を目的に活動した。

- ・【第34回富士シンポジウム】令和元年6月6日(木)大会議室/参加者97名
富士市医師会との共催事業として、中央病院から1題、医師会から1題、富士保健所から1題の計3題の発表に対し、会場からの一般質問方式でシンポジウムを開催した。
- ・【第20回市民公開講座】令和元年5月16日(木)ロゼシアター/参加者103名
東京慈恵会医科大学より心臓外科学講座主任教授の國原 孝氏を招き、「高齢者に対する心臓手術は恐くない」の内容で講座を行った。
- ・【第36回院内学術集会】令和元年8月30日(金)大会議室/参加者134名
2部構成として、第1部では一般演題発表(診療部・診療技術部・看護部から3題ずつの計9演題)、第2部では「日本の国際化と中央病院」をテーマにシンポジウムを行った。
- ・【第21回市民公開講座】令和元年10月30日(水)ロゼシアター/参加者169名
東京慈恵会医科大学より内科学講座(腎臓・高血圧内科)主任教授の横尾 隆氏を招き、「放っておくと怖い慢性腎臓病 ~初期対応から再生医療まで~」の内容で講座を行った。
- ・【平成30年度病院年報】の発行
- ・【学術雑誌Vol. 36, 2019】の発行

4 来年度の課題

以下の3主要事業を実施する。「富士シンポジウム」は、統一したテーマで開催し、情報共有を図る。「市民公開講座」は、院外講師を2回招き、健康管理に役立つ情報を発信する。「院内学術集会」は、一般演題発表に留まらず、院内全体の課題等に関するシンポジウムを開催する。

病院年報を発刊する。単なる病院概要や統計資料ではなく、当院の現状がわかりやすく伝わるよう改良を重ね、より良いものになるよう努めていく。

(文責 後藤 博一)

■病棟委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	加藤 努（整形外科）	副委員長	河野 優（神経内科）
委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	藤本 祥太（呼吸器内科）
委員	土屋 学（消化器内科）	委員	高橋 康人（腎臓内科）
委員	富永 光敏（循環器内科）	委員	田口 真吾（心臓血管外科）
委員	藤多 慧（小児科）	委員	鈴木 俊雅（外科）～12月
委員	吉田 清哉（外科）1月～	委員	山田 啓太（形成外科）
委員	野田 靖人（脳神経外科）	委員	森下 ナオミ（皮膚科）
委員	後藤 博一（泌尿器科）	委員	村上 暉（産婦人科）
委員	渡辺 勝（眼科）	委員	尾田 丈明（耳鼻咽喉科）
委員	勝山 直彦（歯科口腔外科）	委員	鈴木 雅人（臨床検査科）
委員	稲垣 伸一（中央放射線科）	委員	佐野 達哉（臨床工学科）
委員	小俣 朋子（栄養科）	委員	中村 公美（リハビリテーション科）
委員	加藤 寛史（薬剤科）	委員	勝又 千壽子（副看護部長）
委員	中村 三千代（3 B病棟）	委員	鈴木 早苗（4 A病棟）
委員	渡邊 志津子（4 B病棟）	委員	富永 美保（5 A病棟）
委員	松山 早登美（5 B病棟）	委員	田中 圭子（6 A病棟）
委員	小林 由美（6 B病棟）	委員	遠藤 里花（7 A病棟）
委員	勝亦 由美（7 B病棟）	委員	柘植 範子（3 C病棟）
委員	野澤 治（ICU）	委員	小野田 智恵子（地域医療連携室）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	渡辺 利英（病院総務課）
委員	玉舟 正弥（医事課）	事務局	木内 啓人（病院経営課）

2 開催回数

11回（毎月1回、第2水曜日）

3 令和元年度の取組実績

各科の病棟配置及び病床配分について、毎月の病床利用率に基づき次年度の方針を検討した。また、業務改善の取組として、入院診療計画書の運用を見直すとともに、各病棟で苦慮していた無断離院患者について対応マニュアルを作成した。

その他、年2回、病棟と診療技術部各科での倫理ノート利用状況を確認した。

4 来年度の課題

病床利用率を把握し効率的な病床運用を行い、利用率向上を図る。また、病棟業務の見直しを行い、業務改善に取り組んでいく。

（文責 加藤 努）

■勤務環境改善委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸 (院長)	委員	後藤 博一 (副院長兼総括部長)
委員	高橋 康人 (医局長)	委員	伊藤すみ子 (副院長兼看護部長)
委員	勝又千壽子 (副看護部長)	委員	石川 隆之 (診療技術部長兼臨床検査科技師長)
委員	大沼 幹雄 (事務部長)	委員	芹澤 広樹 (病院経営課長)
委員	渡辺 利英 (病院総務課長)	委員	玉舟 正弥 (医事課長)
委員	杉沢 利次 (参与)	事務局	鈴木 裕子 (病院総務課)

2 開催回数

3回

3 (1) 令和元年度の取組実績

- ・勤務医の負担の軽減及び処遇の改善計画の策定と状況確認
- ・看護師の負担の軽減及び処遇の改善計画の策定と状況確認
- ・医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善計画の策定と状況確認
- ・勤務環境改善マネジメントシステムの導入検討
- ・働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会実施 (4回)
- ・勤務環境改善計画の策定

(2) 検討内容等

- ・働き方改革について
- ・36協定の締結について
- ・長時間労働の解消について
- ・医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組について
- ・医師の労働と自己研鑽の考え方等について

4 来年度の課題

- ・医師の働き方改革および勤務環境改善計画における問題点を解決するための具体的な取組み 22 事業の推進

(文責 柏木 秀幸)

■外来委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也（外科）	副委員長	藤谷 暢子（眼科）
委 員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	委 員	安藤 精貴（糖尿病・内分泌・血液内科）
委 員	木村 哲夫（呼吸器内科）	委 員	金井 友哉（消化器内科）
委 員	阪本 宏志（循環器内科）	委 員	秋山 直枝（小児科）
委 員	鈴木 俊雅（外科）	委 員	三橋 真（整形外科）
委 員	山田 啓太（形成外科）	委 員	堀内 一史（脳神経外科）
委 員	榛葉 頼子（産婦人科）	委 員	森下 ナオミ（皮膚科）
委 員	鈴木 英訓（泌尿器科）	委 員	尾田 丈明（耳鼻いんこう科）
委 員	道本 顕吉（放射線科）	委 員	井上 恒佳（麻酔科）
委 員	外岡 雄二（精神神経科）	委 員	井出 正俊（歯科口腔外科）
委 員	鈴木 英昭（臨床検査科）	委 員	遠藤 佳秀（中央放射線科）
委 員	勝間田 賢（臨床工学科）	委 員	幾嶋 邦人（リハビリテーション科）
委 員	渡邊 浩臣（薬剤科）	委 員	勝又 智壽子（副看護部長）
委 員	野澤 里美（外来看護長）	委 員	田島 眞弓（外来A）
委 員	白井 さつき（外来B）	委 員	戸塚 美晴（外来C）
委 員	渡邊 かおる（外来D）	委 員	大塚 君子（患者サポート室長）
委 員	芹澤 広樹（病院経営課）	委 員	渡辺 利英（病院総務課）
委 員	玉舟 正弥（医事課）	事務局	岡本 功（医事課）
事務局	寺田 和子（医事課）		

2 開催回数

12回

3 令和元度の取組実績

① 外来診療に係る診療報酬算定と施設基準について

外来診療に係る算定可能な診療報酬について運用、算定方法を協議し、委員からの意見を参考に、新たなテンプレートを作成して入力作業の簡略化を図った。

また、病院全体で取得に向けて取り組んでいる「総合入院体制加算 3」については、課題である「診療情報提供料 I（退院時情報添付）」の算定率を向上させるため、算定漏れの防止策や算定事例について説明し、逆紹介を推進するよう協力を仰いだ。

② 外国人患者への対応について

委員会で導入を提案していた、多言語医療通訳タブレットが今年度より使用開始となった。

多国籍化し、年々増加傾向にある外国人患者に対し、24時間対応可能な体制が構築され、受付、診療、相談等多方面で活用している。

しかし、通信環境等に課題が残されているため、診療科の使用状況を参考に改善に向けさらに検討していく。

③ 待ち時間対策について

待ち時間対策の一環として、外来順番待ち表示の活用について検討した。

患者さんの不満や不安を軽減するため、30分ごとの予約枠内で複数の患者さんを診察していることや、診察内容によっては、待ち時間が発生する場合があること等を表示し、患者さんへの予約時間に対する周知と待ち時間へのご理解を図ることとした。

また、患者さんの通院に係る負担軽減と待ち時間短縮に繋げるため、中央放射線科が実施する検査に係る予約期間を翌年該当月（13か月先）までに統一し、これについて院内全体に周知を図った。

④ Prime Reportの活用について

依頼件数が多い富士・富士宮市の「介護保険主治医意見書」の様式を電子カルテのPrime Reportに新たに登録を行い、手書き対応からPrime Reportの作成に変更し医師の負担軽減を図った。

また、これに不随する医師への依頼票の変更や印刷等について検討し、1月より運用を開始した。

4 来年度の課題

① 外来部門に係るさまざまな問題や課題を取り上げ、解決を図る。

② 地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化に努め、地域医療の質向上を図る。

③ 地域医療支援病院における外来診療の役割について理解を深め、紹介率・逆紹介率の向上に努める。

④ 「外来患者の待ち時間対策」について、患者さんアンケート等の調査から得られた意見を参考に、診療科の現状を検証し協議していく。

⑤ 「総合入院体制加算 3」について、今後も毎月の算定状況を把握しながら、施設基準の取得を目指し、方策を検討していく。

(文責 梶本 徹也)

■放射線安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	高木 省一 (中央放射線科)
委員	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	清水 則雄 (中央放射線科)	委員	遠藤 一弘 (中央放射線科)
委員	岡田 和教 (中央放射線科)	委員	鈴木 浩之 (中央放射線科)
委員	秋田 真弓 (中央放射線科)	委員	神田 直樹 (中央放射線科)
委員	渡辺 利英 (病院総務課)	委員	原田 誠 (病院総務課)
委員	伴野 晃仁 (病院総務課)		

- ・安全管理責任者：高木 省一
- ・放射線取扱主任者：遠藤 一弘
- ・放射線取扱主任者 (安全管理担当者)：岡田 和教、鈴木 浩之、秋田 真弓、神田 直樹
- ・管理区域担当者：清水 則雄
- ・健康管理医：藤井 常宏
- ・施設管理責任者：渡辺 利英
- ・施設管理担当者：原田 誠
- ・法令担当者：伴野 晃仁

2 開催回数

2回

3 平成 30 年度の取組実績

- ・放射線障害防止法および予防規程等により定められた以下の項目を実施した。

個人被ばく線量測定	12回 / 年
健康診断	2回 / 年
環境測定	2回 / 年
自主点検 (放射線治療室、RI 室、X線撮影装置)	2回 / 年
教育訓練 (定期)	2回 / 年
教育訓練 (新規)	8回 / 年
放射線管理状況報告書提出	1回 / 年
保健所立入検査	1回 / 年
RI 使用予定届提出	1回 / 年

- ・放射線安全管理会議委員会運営規則を作成した。
- ・放射線障害予防規程を作成し、原子力規制委員会に提出した。
- ・医療放射線に係る安全管理が規定され、医療放射線安全部会を設置した。

- ・防護衣の管理等を、中央放射線科にて一括管理する事となった。

4 来年度の課題

保健所立入り検査結果については、指摘・文章・口頭指導事項なし。

助言については、以下の通り。

- ・手術室にて外科用イメージを使用した場合は、一時的管理区域を設定し帳簿に記帳すること。
- ・RI 室の一時立入記録を作成すること。
- ・XiO レポートにプラン入力者を記載すること。
- ・環境測定バッジの方向依存性について確認し、測定方法を検討すること。
- ・環境測定場所ファイルの歯科口腔外科図面に扉を明示すること。
- ・歯科口腔外科の自主点検帳簿に責任者の確認欄を設けること。

(文責 諸岡 暁)

■災害対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	大沼 幹雄 (事務部長)
委員	後藤 博一 (副院長兼総括部長兼泌尿器科部長)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)
委員	高橋 康人 (腎臓内科)	委員	良元 和久 (手術管理科・外科)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	石川 隆之 (臨床検査科)
委員	高木 省一 (中央放射線科)	委員	加藤 寛史 (薬剤科)
委員	勝又 千壽子 (副看護部長)	委員	白戸 幸子 (医療安全対策室)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	玉舟 正弥 (医事課)	委員	原田 誠 (病院総務課)
委員	武吉 勇喜 (警備室)	外部委員	佐瀬 徳志 (※)
事務局	守屋 良紀 (病院総務課)	事務局	秋山 英希 (病院総務課)

(※) 水道技術管理者・水道維持課長

2 開催回数

11回 (毎月第1火曜日)

3 令和元年度の取組実績

(1) 災害対策訓練の実施

- ・救護所訓練 (参加者31名)

11月16日 (土)、外部講師を招聘し、院内講師とともに診療部と看護部職員を対象に救護所訓練を実施した。診療部は標準外傷診療コースのJATECに準じた外傷初期診療訓練、看護部は2次トリアージ訓練 (理論と実習) を行った。

(2) 富士市立中央病院 職員携行カードの作成

- ・災害時の参集に関する情報等を掲載

個人別の参集基準や参集時に必要な情報を掲載したカードを作成した。

(3) 職員・帰宅困難者用備蓄食料の配備 (入院患者用は患者給食業務委託内で配備済)

- ・サバイバルフーズ 【24ケース/1,440食】

内訳：①ファミリーセット (チキンシチュー&クラッカー) ×12ケース

②ファミリーセット (野菜シチュー&クラッカー) ×12ケース

※備蓄食料の見直しを行い、平成28年度より6ヵ年計画で25年保管可能な「サバイバルフーズ」の配備を行っている (4年目)

- ・飲料水 500mlペットボトル 【50ケース/1,200本】

※昨年度までの在庫本数2,304本に関しては、消費期限 (5年間保存) 切れとなった。調理・飲料以外で使用可能なため、飲料水と明確に区分し継続保存する。

(4) DMATの活動・強化・育成

- ・毎月第2木曜日の15時より部会を開催
- ・第1回中部ブロックDMAT技能維持研修【7月14日(日)－15日(月)・山梨県甲府市】の受講
- ・富士市医師会救護所訓練【7月30日(火)・医師会館】へ協力参加
- ・静岡県・三島市・函南町総合防災訓練【9月1日(日)・NTT東日本伊豆病院】へ協力参加
- ・(政府訓練)大規模地震時医療活動訓練【9月7日(土)・厚木航空基地】への参加
- ・富士市消防本部救急医療週間訓練【9月9日(月)・中央公園】への協力参加
- ・令和元年度災害派遣医療チーム(DMAT)研修【9月12日(木)－14日(土)・大阪府大阪市】の受講
- ・院内救護所訓練【11月16日(土)・中央病院】への協力参加
- ・富士市医師会救護所訓練【11月21日(木)・医師会館】へ協力参加
- ・静岡県国民保護共同実働訓練【12月18日(水)・富士スピードウェイ】への参加

4 来年度の課題

防災計画等マニュアルの改訂作業を進める。より現状に即した内容に改定し、災害への備えを強化する。

引き続き、富士市地域防災計画及び富士市立中央病院地震防災計画に基づき、災害拠点病院として、急性期における医療救護活動と傷病者の広域搬送及び地域医療機関の支援に貢献するため、災害対策訓練の継続開催を通して職員一人ひとりの災害医療に対する技術及び知識向上を図り、災害対策用設備及び資機材等の配備を計画的に行っていく。

(文責 諸岡 暁)

■防火管理委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）
副委員長	後藤 博一（副院長兼総括部長兼泌尿器科部長）	副委員長	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）
副委員長	大沼 幹雄（事務部長）	副委員長	渡辺 利英（病院総務課）
委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	高木 省一（中央放射線科）
委員	石川 隆之（臨床検査科）	委員	小俣 朋子（栄養科）
委員	勝又 千壽子（副看護部長）	委員	大石 悦子（副看護部長）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	玉舟 正弥（医事課）
委員	小野田 智恵子（地域医療連携室）	委員	原田 誠（病院総務課）
委員	武吉 勇喜（警備室）	事務局	堤 恭子（病院総務課）

2 開催回数

2回（7月、11月）

3 令和元年度の取組実績

- ・消防法の規定に基づき、院内消防訓練を2回実施した。

第1回は7月26日に実施した。6A病棟での夜間を想定した病棟避難訓練、業者による消防設備の説明、はしご車を用いた別館屋上からの降下訓練及び水消火器を用いた初期消火訓練を実施した。

第2回は11月22日に実施した。第1回と同様の病棟避難訓練を4A病棟で行い、業者による消防設備の説明を受けた。その後、救助袋を用いた病棟からの降下訓練及び水消火器を用いた初期消火訓練を実施した。

4 来年度の課題

令和2年度も引き続き消防訓練を実施し、職員の防火意識の向上を図っていく。

（文責 諸岡 暁）

■虐待対策委員会（G T I）

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	秋山 直枝（小児科）	副委員長	藤井 常宏（救急室運営委員長）
委員	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	委員	加藤 努（整形外科部長）
委員	池本 智（小児科）	委員	勝又 千壽子（副看護部長）
委員	野澤 里美（外来ABC）	委員	田中 秀樹（3B病棟）
委員	持田 和美（4B病棟）	委員	渡辺 利英（病院総務課）
委員	玉舟 正弥（医事課）	委員	江村 宏子（患者サポート室）
委員	遠藤 卓馬（地域医療連携室）	事務局	小林 真紀子（患者サポート室）

2 開催回数

発生時随時開催

3 令和元年度の取組実績

児童虐待対応マニュアルに則り、虐待疑いを含めたケースへの速やかな対応を実施した。その結果、児童相談所への早期通告が実施できた。

今後も引き続き院内への周知を行い、虐待を疑う意識を持ち続けると共に、発生時の迅速な対応に取り組んでいく。

また、DV対応マニュアルの整備をした。

4 来年度の課題

- ・高齢者や障害者虐待対応マニュアルの作成
- ・職員を対象とした研修会や啓発講演会の開催

（文責 秋山 直枝）

■臨床研修センター

1 組織及び設置目的

富士市立中央病院の医師臨床研修を運営する。（平成27年1月1日設置）

役 職	氏 名	役 職	氏 名
センター長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副センター長	梶本 徹也 (外科部長)
指導主任	河野 優 (神経内科部長)	指導主任	良元 和久 (手術管理科部長)
臨床研修医	塩田 悠乃	臨床研修医	白川 毅
臨床研修医	萩原 亘	臨床研修医	山崎 慎太郎
臨床研修医	佐藤 匠	臨床研修医	劉 文翰
臨床研修医	増田 有亮	臨床研修医	齋藤 寛大
臨床研修医	森本 宇	臨床研修医	町野 孝行
事務局	病院総務課		

※役割－臨床研修センターは、初期臨床研修医の育成に関わり、初期臨床研修医の募集・採用、研修プログラムの策定、評価や修了認定など、研修全般の運営、さらに臨床研修医の精神的支援など、研修プログラムの円滑な実施のため、院内診療科や地域の協力病院と連携して活動をする。

2 開催回数 2回

3 令和元年度の取組実績

- (1) 初期臨床研修医オリエンテーション実施
- (2) 初期臨床研修医に対する面談の実施、ローテーションの調整
- (3) ウェブサイトの検討及び臨床研修案内の作成
- (4) 臨床研修指導医養成講習会への医師派遣（2名）
- (5) スキルアップ研修の企画及び実施、院外研修への初期臨床研修医の派遣
- (6) 医学生に対する合同説明会参加
- (7) 臨床研修プログラム作成

(令和元年度プログラム一例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内 科				麻酔科	放射線科	内 科		皮膚科	産婦人科	小児科	
2年目	内 科			救急	耳鼻科	地域医療	救 急		精神科	小児科	産婦人科	内科

4 来年度の課題

引き続き、初期臨床研修医の研修を支援していくとともに、当院初期臨床研修の充実を図っていく。

(文責 笠井 健司)

■喫煙対策委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）
委員	後藤 博一（副院長兼総括部長）	委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	木村 哲夫（呼吸器内科）	委員	河野 優（神経内科）
委員	入村 雄也（外科）	委員	富永 光敏（循環器内科）
委員	石川 隆之（診療技術部）	委員	勝又 千壽子（看護部）
委員	大沼 幹雄（事務部）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	渡辺 利英（病院総務課）	委員	玉舟 正弥（医事課）
事務局	鈴木 裕子（病院総務課）	事務局	佐野 昌哉（病院総務課）

2 開催回数

3回（4月、5月、10月）

3 令和元年度の取組実績

①健康増進法の一部を改正する法律等への対応

受動喫煙を防止するため、健康増進法の一部を改正する法律及び静岡県受動喫煙防止条例が施行され、その対応について検討した。敷地内禁煙とすることにより敷地外の道路等での喫煙が想定されるため、特定屋外喫煙場所を設けることとした。改正法の趣旨及び社会情勢の変化を鑑み、基本的には禁煙に向かっていく方向であるため、これまで複数箇所設けられていた喫煙所は1か所とした。

②職員への周知

特定屋外喫煙場所設置の周知並びに勤務時間内における喫煙の原則禁止について周知した。

4 来年度の課題

今後、地域がん診療連携拠点病院を目指す中で、他の病院等でどのような禁煙対策、教育がなされてきたのか、成功しているのかを検証して議論していく。

（文責 柏木 秀幸）

■富士市透析防災ネットワーク

会長の笠井副院長が中心となり平成 22 年に発足。医療機関と行政が連携して「大規模地震等の災害時において、透析治療を必要とされる方が、安心して治療を受けることができるように、富士地区透析施設におけるネットワークを構築する」ことを目的に、体制の整備、訓練、啓発活動を行っている。

1 組織

会 長 笠井健司(富士市立中央病院副院長兼腎臓内科部長)

リーダー 聖隷富士病院 服部 俊文

サブリーダー 東名富士クリニック、富士市立中央病院

(参加透析施設)

加藤クリニック、共立蒲原総合病院、新富士病院、聖隷富士病院、

東名富士クリニック、富士市立中央病院、富士第一クリニック (五十音順)

2 開催回数

日	時	場 所	内 容
R1.5.23	18:30	中央病院	第1回スタッフ会議
R1.6.20	18:30	中央病院	第2回スタッフ会議
R1.7.25	18:30	中央病院	第3回スタッフ会議
R1.8.22	18:30	中央病院	第4回スタッフ会議
R1.9.26	18:30	中央病院	第5回スタッフ会議
R1.10.24	18:30	中央病院	第6回スタッフ会議
R1.11.21	18:30	中央病院	第7回スタッフ会議
R2.1.23	19:00	聖隷富士病院	透析機器研修・第8回スタッフ会議
R2.2.8	18:30	市消防庁舎大会議室	富士市防災ネットワーク講演会
R2.2.27	18:30	中央病院	第9回スタッフ会議
R2.3.25	19:00	中央病院	施設代表者会議

3 令和元度の取組実績

○MCA無線使用訓練の実施

各施設に配備したMCA無線機について、毎月第2・4木曜日に通信訓練を実施した。

○透析機器研修の開催【令和2年1月23日(木) 聖隷富士病院】

参加者 50名

○富士市透析防災講演会の開催【令和2年2月8日(土) 市消防庁舎】

参加者 118名

「災害について学ぶ～自分たちにできることは～」をテーマとして各施設の患者さんやそのご家族を対象に講演会を開催した。

また、当初は10月に開催する予定であったが、台風19号の影響により延期となり2月の開催となった。

「豪雨災害に備えよう～警戒レベルと避難の判断～」

(富士市総務部防災危機管理課 太田 智久)

「2019版 災害を乗り越えるために知っておきたいこと」

(富士市透析防災ネットワーク会長 笠井 健司)

4 来年度の課題

来年度も引き続き透析患者向けの講演会を行い災害発生時に患者さん自身がどのように動くべきか考えるきっかけ作りをする。また、第2種拠点透析施設を中心として透析機器研修を行うとともに、MCA無線を利用した情報伝達訓練を継続的に実施し施設間の連携強化を図る。

さらに、ネットワーク内各施設間において非常時及び災害時等の情報共有と連携を図ることにより、各施設における防災対策の改善強化と施設間相互の協力体制の整備を進め、実際の災害時には迅速に対応できるようスタッフ会議で話し合い、備えていく。併せて実情に応じた行動マニュアルの改訂を行い有事の際に備えていく。

(文責 笠井 健司)

■利益相反（COI）委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	後藤 博一（副院長兼総括部長兼泌尿器科部長）
委員	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）	委員	加藤 寛史（薬剤科長）
委員	大沼 幹雄（事務部長）	事務局	伴野 晃仁（病院総務課）

2 開催回数

2 件（迅速審査のみ）

3 令和元年度の取組実績

利益相反委員会は、外部との経済的な利益関係により公的研究で必要とされる「公正」「適正」な判断が損なわれる、または損なわれているのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態について適正な管理を行うため、平成 27 年 4 月 1 日に設置した。

また、平成 30 年 4 月 1 日に臨床研究法が施行されたことに伴い、法に基づく利益相反管理の内容について共通理解を行うと共に関係機関との整合性を図ったうえで当院における利益相反規定等を見直し改正を行った。

令和元年度は、迅速による審査を 2 回行った。

4 来年度の課題

委員会の開催を必要とする利益相反が申請された場合は、速やかに委員会を開催し、利益相反管理規定に定める利益相反の適切な管理及び透明性の確保に努める。

（文責 遠藤 泰彦）

■NICU運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	秋山 直枝 (小児科)	副委員長	矢田 大輔 (産婦人科)
副委員長	海野 浩寿 (小児科)	副委員長	齋藤 正美 (4 B病棟)
委員	池本 智 (小児科)	委員	鈴木 早苗 (4 A病棟)
委員	大井 洋子 (4 A病棟)	委員	持田 和美 (4 B病棟)
事務局	塩澤 忠生 (医事課)	事務局	露木 秀俊 (医事課)

2 開催回数

なし (必要時開催)

3 令和元年度の取組実績

NICU 運営委員会は、NICU の円滑な管理・運営を図るため、平成 27 年 5 月に設置された。

令和元年度は、委員会を開催すべき問題等はなかった。

4. 来年度の課題

周産期カンファレンスで問題となった点や NICU 運営の問題点発生時に、必要に応じて開催する。

(文責 秋山 直枝)

■リハビリテーション運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	加藤 努 (整形外科)	副委員長	野田 康人 (脳神経外科)
委員	河野 優 (神経内科)	委員	良元 和久 (手術管理科・外科)
委員	阪本 宏志 (循環器内科)	委員	柘植 範子 (3C病棟)
委員	石川 隆之 (診療技術部長)	委員	遠藤 卓馬 (地域医療連携センター)
委員	岡本 功 (医事課)		
委員 (事務局)	中村 公美 (リハビリテーション科)	事務局	リハビリテーション科

2 開催回数

令和元年度は3回開催 (6月、12月、3月)

3 令和元年度の取組実績 (議事内容)

第1回: 「リハビリ実施計画書・リハビリ総合実施計画書の運用について」

「言語療法部門の業務縮小について」等

第2回: 「病院機能評価指摘事項の進捗について」

「休日リハビリ試行について」等

第3回: 「リハビリ部門の令和2年度診療報酬改定内容」

「理学・作業療法士による喀痰吸引の実施について」等

* 「心大血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ」の施設認可を取得し、令和元年10月より算定開始となった。

4 来年度の課題

- ・リハビリ専門医または認定医の常勤配置を目指す。
- ・多職種連携を進める。
- ・当院における休日リハビリの必要性及び実施方法について検討する。

(文責 加藤 努)

■経営改善チーム

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	後藤 博一（泌尿器科）	副委員長	良元 和久（手術管理科・外科）
委員	阪本 宏志（循環器内科）	委員	河野 優（神経内科）
委員	石川 隆之（診療技術部長）	委員	勝又 千壽子（副看護部長）
委員	芹澤 広樹（病院経営課長）	委員	寺田 和子（医事課）
委員	島田 英介（医事課）	事務局	木内 啓人（病院経営課）

2 開催回数

7回

3 令和元年度の取組実績

（1）病床利用率の安定化

月別在院患者病床利用率を病棟別・診療科別に算出し、病床利用状況を確認した。

（2）DPCデータを用いた経営分析

在院日数の適正化に向け、入院期間Ⅱを意識した退院調整を行うため、試行として確認リストを作成し病棟のカンファレンスで活用した。また、院内全体にDPCの入院期間を意識してもらうため、DPC委員会に対し、診療科別の入院期間比率を管理会議へ報告していくことを依頼した。

（3）収益確保に向けた施設基準の整備

総合入院体制加算3の取得に向けて要件の確認を行い、診療情報提供料等の算定割合4割以上に向けて、現状把握と改善策を検討した。

（4）病院経営分析チームからの提案に対する検討及び回答

検討テーマ

- ・医療機器レンタル・購入の最適化
- ・医師事務作業補助者の有効活用について
- ・病院経営を牽引する事務部幹部職員の育成

4 来年度の課題

病院経営上の課題について、既存の所属や委員会の枠を越えて検討し、改善提案を院長に提言していく。特に、収益増加につながる改善策を検討していく。

（文責 阪本 宏志）

■医療機器等導入機種選定委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	大沼 幹雄（事務部長）
委員	後藤 博一（総括部長）	委員	井出 宣孝（医療機器管理室）
委員	石川 隆之（診療技術部長）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	渡辺 利英（病院総務課）		
事務局	堤 恭子（病院総務課）		

2 開催回数

6回

3 令和元年度の取組実績

病院事業に資する医療機器等の購入に際し、最も適正な機器選定を行うことを目的とした医療機器導入機種選定委員会を開催した。以下の高額医療機器の購入に際し、納入価格や機器の能力、規格、機能、仕様等を審査した。

- ・ 高圧蒸気滅菌装置
- ・ ホルムアルデヒド対策用システム
- ・ ICU 生体情報管理システム
- ・ ホルミウムヤグレーザーシステム
- ・ 手術台
- ・ 麻酔器
- ・ 移動型 X線撮影装置

4 来年度の課題

令和2年度も医療機器等の購入に際し、最も適正な機器選定を行い、適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

（文責 柏木 秀幸）

■保育所運営協議会

役職	氏名	役職	氏名
会長	大沼 幹雄（事務部長）	副会長	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）
会員	5名		

■省資源・省エネルギー対策推進委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	大沼 幹雄（事務部長）	副委員長	富永 光敏（循環器内科副部長）
副委員長	勝又 千壽子（看護部長室）	委員	11名

■終末期医療対策委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	梶本 徹也（外科部長）	副委員長	勝又 千壽子（看護部長室）
委員	6名		

■地域がん診療病院運営委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	藤井 常宏（化学療法委員会）	副委員長	大沼 幹雄（事務部長）
委員	8名		

■内科専門研修プログラム管理委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）	副委員長	阪本 宏志（循環器内科）
委員	13名		

■医療機器等長期整備計画検討委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	大沼 幹雄（事務部長）	副委員長	渡辺 利英（病院総務課）
委員	9名		

■新病院建設検討委員会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸 (院長)	副委員長	大沼 幹雄 (事務部長)
委員	9名		